

目 次（1年生）

科 目	学科・コース	ページ番号
国語総合(現代文)	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	1, 2
国語総合(古典)	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	3, 4
国語総合(現代文)	(進学・総合コース)	5, 6
国語総合(古典)	(進学・総合コース)	7, 8
国語総合(現代文)	(生活教養科)	9, 10
国語総合(古典)	(生活教養科)	11, 12
世界史A	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	13, 14
現代社会	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	15, 16
現代社会	(進学・総合コース)	17, 18
現代社会	(生活教養科)	19, 20
数学Ⅰ	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	21, 22
数学Ⅰ	(進学・総合コース)	23, 24
数学Ⅰ	(生活教養科)	25, 26
数学A	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	27, 28
数学A	(進学・総合コース)	29, 30
物理基礎	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	31, 32
生物基礎	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	33, 34
地学基礎	(進学・総合コース)	35, 36
地学基礎	(生活教養科)	37, 38
体育	(普通科)	39, 40
体育	(生活教養科)	41, 42
体育(武)	(全)	43, 44
保健	(全)	45, 46
音楽Ⅰ	(全)	47, 48
美術Ⅰ	(全)	49, 50
書道Ⅰ	(全)	51, 52
コミュニケーション英語Ⅰ	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	53, 54
コミュニケーション英語Ⅰ	(進学・総合コース)	55, 56
コミュニケーション英語Ⅰ	(生活教養科)	57, 58
英語表現Ⅰ	(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)	59, 60
英語表現Ⅰ	(進学・総合コース)	61, 62
家庭基礎	(進学・総合コース)	63, 64
家庭総合(被服)	(生活教養科)	65, 66
家庭総合(食物)	(生活教養科)	67, 68
社会と情報	(全)	69, 70
生活産業基礎	(生活教養科)	71, 72

教科名	国語	科目名	国語総合（現代文）	単位数	5 単位
対象学年	第1学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	現代文を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 随想では筆者のものの見方や感じ方、言葉の微妙な表現に触れ、多角度からものを見る目を養う。 ② 小説では文章に親しみ、人物の心情やそれに伴う情景描写の把握に努める。 ③ 評論では文章の構成に留意して、筆者の見解を的確に捉え、自分の考え方に反映させながら考えるようにする。 ④ 教科書で用いられている語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。 ⑤ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。 ⑥ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、原稿用紙の使い方など文章を書く際の基本的な姿勢を学習する。 ⑦ 図書館の利用の仕方、情報の取捨選択、考察などを通して自分の考えをまとめ、発表することができるよう、レポート作成などを取り入れて学習する。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を高め、言語文化に対する関心を高める。 ② 話す・聞く能力 目的に応じて効果的に話し、的確に聞き取り、話し合い、自分の考えを深める。 ③ 書く能力 適切那表現による文章を書き、自分の考え方を深め発展させる。 ④ 読む能力 目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させる。 ⑤ 知識・理解 言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につける。 <p>(2) 評価方法は次の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 定期考査 ② 関心・態度 ③ 課題とノート提出 ④ 出席状況 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。 				
教科書・教材等	『精選国語総合』三省堂 『精選国語総合 学習課題ノート』三省堂 『新版高校漢字必携』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	日本語のひびき 随想 「ぐうぜん、うた がう、読書のスス メ」 『待つ』という こと	<ul style="list-style-type: none"> 音読し、美しい言葉のひびきを味わう。 「読書」について、筆者の言葉の意味を考える。 対比表現に注意し、筆者の主張を過不足なく読み取る。 	9	<ul style="list-style-type: none"> 音読し、美しい言葉の響きを味わおうとしている。 述べられた事柄から、筆者の考えを理解している。 「待たない社会」と「待てない社会」の違いについて、筆者の叙述から考えようとする。
5	小説「羅生門」 「ゴール」 評論「水の東西」 「言語は色眼鏡 である」「自然を めぐる合意の設 計」 詩 「旅上」	<ul style="list-style-type: none"> 小説の文章に親しむ。 登場人物の心情を読み取る。 文化の違いについて、日本と西洋の水の比較から考える。 詩の持つ独特の韻律に気づこうとする態度を身につける。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 下人の置かれている状況、老婆の考え、二人の行動や心情の変化、場面の推移を理解し、自分の考えを持とうとしている。 日本と西欧の水に対する感じ方の違いを理解し、考えを深めようとしている。
6	「サーカス」他	<ul style="list-style-type: none"> 人物の心情や行動を理解し、場面の推移を捉え、「私」の抱いた気持ちについて考えようとする。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し音読することで、詩の韻律に慣れようとしている。 詩の表現形式や修辞について理解している。
7	小説 「清兵衛と瓢箪」 「青が消える」	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題から自己の思考を深める。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 「私」の置かれている状況、「私」の考え、心情の変化、場面の推移を理解し、自分の考えを持とうとしている。
8	評論 「情報と身体」 他 短歌・俳句 「その子二十」 「いくたびも」	<ul style="list-style-type: none"> 優れた短歌、俳句を理解し鑑賞する力を養う。 短歌、俳句を創作する。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が述べる、情報と身体の関係について理解しようとしている。 理解したそれぞれの短歌、俳句の内容を、朗読や鑑賞文に生かそうとしている。 短歌の基礎的な構造（韻律・句切れ）、俳句の基礎的な式目（季語や切れ字）について理解している。
9	小説 「なめこと山の 熊」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の生涯を通じての課題について考える。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 生きものの存在の哀しみとその救済という主題の普遍性を理解する。
10	「空缶」 評論 「なぜ私たちは 労働するのか」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が述べる「働くことの意味」について理解を深めようとする。 	9	<ul style="list-style-type: none"> 論旨に従って、筆者の主張が理解できる。 労働を巡る筆者の主張を、倫理展開に注目して理解している。
11	評論 「命は誰のもの なのか」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が述べる分配されたものとしての「命」という考え方を理解しようとしている。 	9	<ul style="list-style-type: none"> 引用事例および、筆者の論理展開に着目し、筆者の主張を過不足なく読み取っている。
12	「創造力のゆく え」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が述べる「創造」の本質を理解しようとしている。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 読むことに必要な文章の組み立てを把握する方法を身につける。
1			9	
2			12	
3			9	

教科名	国語	科目名	国語総合(古典)	単位数	5単位
対象学年	第1学年(普通科特進Ⅰ・Ⅱ)		履修形態	必修	
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>A 話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題について自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。 ・ものの見方や感じ方を豊かにする。 <p>B 書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に自主的に参加しながら、ノートをして学習の習慣を身に付ける。 ・読書やコラムを利用して、自分の考えや感想をまとめる力を豊かにする。 <p>C 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い内容に関する読書をする習慣を身に付ける。 ・新聞のコラムを読み、感性を豊かにする。 <p>D 伝統的な言語文化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。 ・語句の意味、用法や表現の仕方を理解し、語彙を豊かにする。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を高め、言語文化に対する関心を高める。 ② 話す・聞く能力 目的に応じて効果的に話し、的確に聞き取り話し合い、自分の考えを深める。 ③ 書く能力 適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ深める。 ④ 読む能力 目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させる。 ⑤ 知識・理解 言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し知識を身に付ける。 <p>(2)評価方法は次の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習で教科書をしっかり読み授業に備える。 ②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。 ③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。 ④学習課題ノートや、課題を的確に行う。 ⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。 				
教科書・教材等	『精選国語総合』三省堂 『クリアカラー国語便覧』数研出版 『新明説総合古典文法』尚文出版 古語辞典・漢和辞典		『精選国語総合 学習課題ノート』三省堂 『古文単語マスター333』数研出版 『必携新明説漢文』尚文出版		

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文入門	<ul style="list-style-type: none"> 古文の読み方を学び親しみをもち。 文語と口語の違いを学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 歴史的仮名遣いを理解し、我が国の言語文化に対する関心を高める。
5	「児のそら寝」	<ul style="list-style-type: none"> 用言について学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 品詞分解や用言の活用を理解する。
6	「古文を読むために1」	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞について学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞の意味・活用・接続を理解し、口語訳の仕方を理解する。
7	「文法から解釈へ②④」	<ul style="list-style-type: none"> 文語文法を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 漢文は中国の文語文であることを理解する。
8	漢文入門	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の性格を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 熟語を通して漢文の構成と訓点を理解する。
9	「漢文の世界へ」	<ul style="list-style-type: none"> 漢文に親しみをもち。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の訓読法を理解し、訓点に従って読む。
	「漢文の構造と訓読の仕方」	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の構造と訓読法を学ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文の書き方を理解する。
	「成句・格言を読む」	<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文を学ぶ。 中国の古代人の考え方を学ぶ 		<ul style="list-style-type: none"> 口語訳をして古代の中国の人の考え方を理解する。
10		<ul style="list-style-type: none"> 助動詞について学ぶ。 助詞「ば」について学ぶ。 物語を読み親しむ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞と助詞「ば」の働きを理解する。
11	「文法から解釈へ③④」	<ul style="list-style-type: none"> 物語の性格を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。
12		<ul style="list-style-type: none"> 文語文法を学ぶ。 随筆を読み味わう。 表現上の特徴を学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 文学史上の物語文学について理解する。 物語を読み味わい、内容の面白さを読み取る。 助動詞と助詞の働きを理解し、口語訳をする。 当時の社会背景を理解する。 時代背景や人の美意識を理解し、登場人物の心情を読み取る
1	物語・随筆	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を理解し、故事成語の意味を学ぶ。 古代の中国人の考え方を学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 訓点に従って音読する。 書き下し文に改める。 口語訳をして内容を理解する。 故事成語が現在どのような意味で使われているか理解する。
	「竹取物語」			
	「伊勢物語」			
	「徒然草」			
2	故事成語	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩を読み味わい、中国の古典への関心を高める。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩のきまりについて理解する。 漢詩のリズムを理解し読み味わう。
3	「推敲」	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩の構成について学ぶ。 	6	
	「漁夫之利」	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の修辞法を学ぶ。 		
	「借虎威」			
	漢詩	<ul style="list-style-type: none"> 和歌を詠み味わい、我が国の言語文化について関心を深める。 		<ul style="list-style-type: none"> 和歌の成り立ちと時代背景を理解する。 地域の歴史と併せて大伴家持について理解する。 それぞれの歌人について関心を深める。 三大和歌集の特徴を理解する。 勅撰和歌集について理解する。 それぞれの和歌の修辞法を読み取り、口語訳し心情を理解する。
	「春暁」～「江雪」			
	「黄鶴楼送孟浩然之広陵」			
	「春望」			
	「古文を読むために⑥」			
	和歌			
	「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」			

教科名	国語	科目名	国語総合（現代文）	単位数	5 単位
対象学年	第1学年（進学・総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	現代文を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 随想では筆者のものの見方や感じ方、言葉の微妙な表現に触れ、多角度からものを見る目を養う。 ⑨ 小説では文章に親しみ、人物の心情やそれに伴う情景描写の把握に努める。 ⑩ 評論では文章の構成に留意して、筆者の見解を的確に捉え、自分の考え方に反映させながら考えるようにする。 ⑪ 教科書で用いられている語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。 ⑫ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。 ⑬ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、原稿用紙の使い方など文章を書く際の基本的な姿勢を学習する。 ⑭ 図書館の利用の仕方、情報の取捨選択、考察などを通して自分の考えをまとめ、発表することができるよう、レポート作成などを取り入れて学習する。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1) 評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を高め、言語文化に対する関心を高める。 ②話す・聞く能力 目的に応じて効果的に話し、的確に聞き取り、話し合い、自分の考えを深める。 ③書く能力 適切那表現による文章を書き、自分の考え方を深め発展させる。 ④読む能力 目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させる。 ⑤知識・理解 言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につける。 <p>(2) 評価方法は次の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ④ 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。 ⑤ 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。 ⑥ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。 				
教科書・教材等	『高等学校 標準 国語総合』第一学習社 『標準 国語総合 学習課題集』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 『チャレンジ常用漢字』第一学習社 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	随想「スイッチをOFFにすることから始める」 「世界は謎に満ちている」	・好奇心を持つことの大切さに目を向ける。 ・「体の声を聞く」ことの意味を考える。	9	・面白さを感じられる表現の、効果を把握している。
5	小説「羅生門」 「とんかつ」	・登場人物の性格・心理・行動を的確に読取る。 ・小説を自分に引きつけて読む姿勢を養う。	12	・文明国で生活する私たちが体の実感を失っている理由を読み取っている。 ・時代小説という形の中に普遍的な人間心理が描かれていることに興味・関心を持っている。 ・登場人物の人物像について理解している。
6	評論「水の東西」 「日本語万華鏡」 詩「道程」 「I was born」 「二十億光年の孤独」	・日本文化の特徴について理解を深める。 ・論理的要素を持つ随想を的確に読解する。 ・生まれることの意味について、考えを深める。	12	・日本文化の特徴について理解している。 ・論旨と具体例の関係を把握している。 ・詩に込められた作者の思いを理解している。 ・散文詩の、定型詩や小説との違いをつかんでいる。 ・『くしゃみ』をした理由」やその効果を理解している。
7	随想「黄色い花束」	・平和やボランティアについて考えるきっかけとする。	12	・筆者の子供のころのエピソードが本文中で果たす役割について理解している。
8	言語活動「ロボットとは何か」	・記録文の特徴について、興味・関心を持つ。	12	・「心とは何か」に関する筆者の考察について、自らの考えを発表しようとしている。
9	小説「他人の夏」 「卒業ホームラン」	・小説の鑑賞力を高める。	12	・わかりにくい言葉・表現を辞書で調べている。 ・作品の主題に迫り、自己の生き方に引きつけて考えている。
10	評論「コミュニケーションは創造的に」 「人はなぜ仕事をするのか」	・現代小説の読解方法を習得する。 ・心の通うコミュニケーションについて考えを深め、自らの生き方に生かす。	12	・筆者のコミュニケーションに対する考え方を理解している。
11	短歌と俳句「清水へ」 「手毬歌」	・情報化時代における日本のあり方について考える契機とする。	12	・今後日本はどうしていけばよいか、自己の問題として考えている。
12	小説「夢十夜」 「鏡」	・短歌の修辞について学び、鑑賞方法を身につける。 ・日本語への理解を深め、想像力や感受性を養う。	9	・それぞれの短歌、俳句の主題や作者の心情を把握している。
1	評論「科学は正しいか」 「イースター島になぜ森がないのか」	・夢幻的な雰囲気のある文章を読み味わう。 ・小説の読解法を習得する。	9	・作者の他の作品や、『夢十夜』の他の話を読むなどして、理解を深めている。 ・「僕」の性格・心理・行動を的確に読み取る。
2	表現の実践「情報探索の方法と実践」	・評論的な随想の読解方法を習得する。	12	・科学という現代的なテーマに触れて、多角的なもの見方や考え方を身につけている。 ・筆者が問題としている論点を把握している。
3		・人類の存続という問題を自分の問題として考える姿勢を養う。 ・目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得する。	9	・効率的な情報収集のしかたや役に立つ情報源について理解している。 ・辞書などの効果的な使い方を理解している。

教科名	国語	科目名	国語総合（古典）	単位数	5 単位
対象学年	第1学年（普通科進学・総合）		履修形態	必修	
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>A 話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題について自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。 ・ものの見方や感じ方を豊かにする。 <p>B 書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に自主的に参加しながら、ノートをして学習の習慣を身に付ける。 ・読書やコラムを利用して、自分の考えや感想をまとめる力を豊かにする。 <p>C 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い内容に関する読書をする習慣を身に付ける。 ・新聞のコラムを読み、感性を豊かにする。 <p>D 伝統的な言語文化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。 ・語句の意味、用法や表現の仕方を理解し、語彙を豊かにする。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を高め、言語文化に対する関心を高める。 ② 話す・聞く能力 目的に応じて効果的に話し、的確に聞き取り話し合い、自分の考えを深める。 ③ 書く能力 適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ深める。 ④ 読む能力 目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させる。 ⑤ 知識・理解 言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し知識を身に付ける。 <p>(2)評価方法は次の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習で教科書をしっかり読み授業に備える。 ②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。 ③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。 ④学習課題ノートや、課題を的確に行う。 ⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。 				
教科書・教材等	『高等学校標準国語総合』第一学習社 『標準国語総合学習課題集』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 古語辞典・漢和辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文入門 「古文の学習」 「児のそら寝」	<ul style="list-style-type: none"> 古文の読み方を学び親しみを持つ。 文語と口語の違いを学ぶ。 話の面白さを学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 歴史的仮名遣いを理解し、我が国の言語文化に対する関心を高める。 登場人物の心情を読み取り、説話の内容の面白さを理解する。
5	漢文入門 「漢文の学習」	<ul style="list-style-type: none"> 漢文とは中国の古典であることを学ぶ。 漢文に親しみを持つ。 漢文の構成と訓読法を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 漢文は中国の文語文であることを理解する。 二字熟語や四字熟語から漢文を理解する。 漢文の構成と訓点を理解する。 漢文の訓読法を理解し、訓点に従って読む。 書き下し文の書き方を理解する。
6	「訓読に親しむ一・二・三」	<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文を学ぶ。 古代の中国人の考え方を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 口語訳をして、古代の中国の人の考え方を理解する。
7	古文に親しむ 「なよ竹のかぐや姫」	<ul style="list-style-type: none"> なじみのある作品を音読し、古文に親しむ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 昔物語としての知っていることを話し合う。 「竹取物語」という古典について理解する。
8		<ul style="list-style-type: none"> 文法について学び、口語訳を学ぶ。 登場人物の行動と心情を読み取る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を読み取り、作り物語の面白さを理解する。 係り結びと用言の活用について理解する。
9	「絵仏師良秀」	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を理解し、故事成語の意味を学ぶ。 古代の中国人の考え方を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 訓点に従って音読する。 書き下し文に改める。 口語訳をして内容を理解する。 故事成語が現代どのような意味で使われているか理解する。
10	「五十百歩」 「矛盾」 「漁夫之利」	<ul style="list-style-type: none"> 説話を読み親しむ。 登場人物の心情を読み味わう。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 助動詞や助詞の働きを理解し、口語訳をする。 時代背景と文学史上の位置を理解する。
11	説話と随筆 「十訓抄」	<ul style="list-style-type: none"> 随筆を読み味わう。 表現上の特徴を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 内容の面白さを理解する。 登場人物の心情を読み取る。
12		<ul style="list-style-type: none"> 助動詞や助詞の働きを学ぶ。 	6	
1	「徒然草」	<ul style="list-style-type: none"> 唐詩を読み味わい、中国の古典への関心を高める。 唐詩の構成について学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩のきまりについて理解する。 漢詩のリズムを理解し読み味わう。 それぞれの詩人について理解を深める。 詩の内容と背景を理解し口語訳をする。
2	漢詩の鑑賞 「唐詩の世界」	<ul style="list-style-type: none"> 唐代の詩人の心情を学ぶ。 日記を読み親しむ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 詩人の心情を理解する。
3	物語と日記 「土佐日記」	<ul style="list-style-type: none"> 当時の社会や筆者について学ぶ。 助動詞を学び、口語訳に生かす。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 日記文学の文学史上の位置を理解する。 作者と当時の時代背景を理解する。 助動詞や助詞に注意して口語訳する。

教科名	国語	科目名	国語総合（現代文）	単位数	5 単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>A 話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題について自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。 ・ものの見方や感じ方を豊かにする。 <p>B 書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に自主的に参加しながら、ノートをして学習の習慣を身に付ける。 ・読書やコラムを利用して、自分の考えや感想をまとめる力を豊かにする。 <p>C 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い内容に関する読書をする習慣を身に付ける。 ・新聞のコラムを読み、感性を豊かにする。 <p>D 伝統的な言語文化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。 ・語句の意味、用法や表現の仕方を理解し、語彙を豊かにする。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を高め、言語文化に対する関心を高める。 ② 話す・聞く能力 目的に応じて効果的に話し、的確に聞き取り話し合い、自分の考えを深める。 ③ 書く能力 適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ深める。 ④ 読む能力 目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させる。 ⑤ 知識・理解 言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し知識を身に付ける。 <p>(2)評価方法は次の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習で教科書をしっかり読み授業に備える。 ②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。 ③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。 ④学習課題ノートや、課題を的確に行う。 ⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。 				
教科書・教材等	『高等学校標準国語総合』第一学習社 『標準国語総合学習課題集』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 国語辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	随想「スイッチをOFFにすることから始める」 「世界は謎に満ちている」	・好奇心を持つことの大切さに目を向ける。 ・「体の声を聞く」ことの意味を考える。	9	・面白さを感じられる表現の、効果を把握している。
5	小説「羅生門」 「とんかつ」	・登場人物の性格・心理・行動を的確に読取る。 ・小説を自分に引きつけて読む姿勢を養う。	12	・文明国で生活する私たちが体の実感を失っている理由を読み取っている。 ・時代小説という形の中に普遍的な人間心理が描かれていることに興味・関心を持っている。 ・登場人物の人物像について理解している。
6	評論「水の東西」 「日本語万華鏡」 詩「道程」 「I was born」 「二十億光年の孤独」	・日本文化の特徴について理解を深める。 ・論理的要素を持つ随想を的確に読解する。 ・生まれることの意味について、考えを深める。	12	・日本文化の特徴について理解している。 ・論旨と具体例の関係を把握している。 ・詩に込められた作者の思いを理解している。 ・散文詩の、定型詩や小説との違いをつかんでいる。 ・『くしゃみ』をした理由」やその効果を理解している。
7	随想「黄色い花束」	・平和やボランティアについて考えるきっかけとする。	12	・筆者の子供のころのエピソードが本文中で果たす役割について理解している。
8	言語活動「ロボットとは何か」	・記録文の特徴について、興味・関心を持つ。	12	・「心とは何か」に関する筆者の考察について、自らの考えを発表しようとしている。
9	小説「他人の夏」 「卒業ホームラン」	・小説の鑑賞力を高める。	12	・わかりにくい言葉・表現を辞書で調べている。 ・作品の主題に迫り、自己の生き方に引きつけて考えている。
10	評論「コミュニケーションは創造的に」 「人はなぜ仕事をするのか」	・現代小説の読解方法を習得する。 ・心の通うコミュニケーションについて考えを深め、自らの生き方に生かす。	12	・筆者のコミュニケーションに対する考え方を理解している。
11	短歌と俳句「清水へ」 「手毬歌」	・情報化時代における日本のあり方について考える契機とする。	12	・今後日本はどうしていけばよいか、自己の問題として考えている。
12	小説「夢十夜」 「鏡」	・短歌の修辞について学び、鑑賞方法を身につける。 ・日本語への理解を深め、想像力や感受性を養う。	9	・それぞれの短歌、俳句の主題や作者の心情を把握している。
1	評論「科学は正しいか」 「イースター島になぜ森がないのか」	・夢幻的な雰囲気のある文章を読み味わう。 ・小説の読解法を習得する。	9	・作者の他の作品や、『夢十夜』の他の話を読むなどして、理解を深めている。 ・「僕」の性格・心理・行動を的確に読み取る。
2	表現の実践「情報探索の方法と実践」	・評論的な随想の読解方法を習得する。	12	・科学という現代的なテーマに触れて、多角的なもの見方や考え方を身につける。 ・筆者が問題としている論点を把握している。
3		・人類の存続という問題を自分の問題として考える姿勢を養う。 ・目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得する。	9	・効率的な情報収集のしかたや役に立つ情報源について理解している。 ・辞書などの効果的な使い方を理解している。

教科名	国語	科目名	国語総合（古典）	単位数	5単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>A 話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題について自分の考えを持ち、論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。 ・ものの見方や感じ方を豊かにする。 <p>B 書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に自主的に参加しながら、ノートをして学習の習慣を身に付ける。 ・読書やコラムを利用して、自分の考えや感想をまとめる力を豊かにする。 <p>C 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い内容に関する読書をする習慣を身に付ける。 ・新聞のコラムを読み、感性を豊かにする。 <p>D 伝統的な言語文化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。 ・語句の意味、用法や表現の仕方を理解し、語彙を豊かにする。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(1)評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を高め、言語文化に対する関心を高める。 ② 話す・聞く能力 目的に応じて効果的に話し、的確に聞き取り話し合い、自分の考えを深める。 ③ 書く能力 適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ深める。 ④ 読む能力 目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め発展させる。 ⑤ 知識・理解 言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し知識を身に付ける。 <p>(2)評価方法は次の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定期考査 ②関心・態度 ③課題とノート提出 ④出席状況 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習で教科書をしっかり読み授業に備える。 ②授業に自主的に参加し、自分の考えを的確に述べる。 ③ノートを効果的にまとめ、語彙や漢字の意味などを理解できるように心掛ける。 ④学習課題ノートや、課題を的確に行う。 ⑤小テストに臨み、基礎的な国語力を身に付ける。 				
教科書・教材等	『高等学校標準国語総合』第一学習社 『標準国語総合学習課題集』第一学習社 『クリアカラー国語便覧』数研出版 古語辞典・漢和辞典				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文入門 「古文の学習」 「児のそら寝」	<ul style="list-style-type: none"> 古文の読み方を学び親しみを持つ。 文語と口語の違いを学ぶ。 話の面白さを学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 歴史的仮名遣いを理解し、我が国の言語文化に対する関心を高める。 登場人物の心情を読み取り、説話の内容の面白さを理解する。
5	漢文入門 「漢文の学習」	<ul style="list-style-type: none"> 漢文とは中国の古典であることを学ぶ。 漢文に親しみを持つ。 漢文の構成と訓読法を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 漢文は中国の文語文であることを理解する。 二字熟語や四字熟語から漢文を理解する。 漢文の構成と訓点を理解する。 漢文の訓読法を理解し、訓点に従って読む。 書き下し文の書き方を理解する。
6	「訓読に親しむ一・二・三」	<ul style="list-style-type: none"> 書き下し文を学ぶ。 古代の中国人の考え方を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 口語訳をして、古代の中国の人の考え方を理解する。
7	古文に親しむ 「なよ竹のかぐや姫」	<ul style="list-style-type: none"> なじみのある作品を音読し、古文に親しむ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 昔物語としての知っていることを話し合う。 「竹取物語」という古典について理解する。
8		<ul style="list-style-type: none"> 文法について学び、口語訳を学ぶ。 登場人物の行動と心情を読み取る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を読み取り、作り物語の面白さを理解する。 係り結びと用言の活用について理解する。
9	「絵仏師良秀」	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を理解し、故事成語の意味を学ぶ。 古代の中国人の考え方を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 訓点に従って音読する。 書き下し文に改める。 口語訳をして内容を理解する。 故事成語が現代どのような意味で使われているか理解する。
10	「五十百歩」 「矛盾」 「漁夫之利」	<ul style="list-style-type: none"> 説話を読み親しむ。 登場人物の心情を読み味わう。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 助動詞や助詞の働きを理解し、口語訳をする。 時代背景と文学史上の位置を理解する。
11	説話と随筆 「十訓抄」	<ul style="list-style-type: none"> 随筆を読み味わう。 表現上の特徴を学ぶ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 内容の面白さを理解する。 登場人物の心情を読み取る。
12		<ul style="list-style-type: none"> 助動詞や助詞の働きを学ぶ。 	6	
1	「徒然草」	<ul style="list-style-type: none"> 唐詩を読み味わい、中国の古典への関心を高める。 唐詩の構成について学ぶ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩のきまりについて理解する。 漢詩のリズムを理解し読み味わう。 それぞれの詩人について理解を深める。 詩の内容と背景を理解し口語訳をする。
2	漢詩の鑑賞 「唐詩の世界」	<ul style="list-style-type: none"> 唐代の詩人の心情を学ぶ。 日記を読み親しむ。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 詩人の心情を理解する。
3	物語と日記 「土佐日記」	<ul style="list-style-type: none"> 当時の社会や筆者について学ぶ。 助動詞を学び、口語訳に生かす。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 古文を正しく音読する。 日記文学の文学史上の位置を理解する。 作者と当時の時代背景を理解する。 助動詞や助詞に注意して口語訳する。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2単位
対象学年	第1学年特別進学コースI類・II類		履修形態	必修	
科目の目標	<p>○世界史は決して「よその国の話」で終わるものではなく、日本とも密接に関わっていることを学び、将来的には日本史Bとの関連性も持たせていく</p> <p>○世界史は、一つの地域や一つの国の歴史を追っているようにみえても、他の地域や国々のできごとと密接に関連していたり、過去と現在が不可分につながっていることを知る。</p> <p>○世界史を「点」で理解するのではなく、「線」や「面」でとらえ、地域や民族の有機的なつながりを理解し、歴史を学ぶおもしろさを理解する。</p>				
学習内容の概要	<p>第1編 世界史へのいざない 自然環境と歴史 日本列島のなかの世界の歴史</p> <p>第2編 世界の一体化と日本 ユーラシアの諸文明 結びつく世界と近世の日本 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>第3編 地球社会と日本 帝国主義の時代 急変する人類社会 世界戦争と平和 三つの世界と日本の動向 地球社会への歩みと課題 持続可能な社会への展望</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③資料活用能力など</p> <p>以上の項目について、定期テスト、出欠状況・学習態度、ノート点検・単元ごとのプリント・小テスト、長期休暇などを利用したレポート提出等を用い、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>○授業をしっかり聞き、教科書や授業時のノートを使って復習しよう。</p> <p>○基本的事項をおさえながら、歴史的な出来事にはどんな背景があるか考えてみよう。</p> <p>○歴史の見方はひとつではない。常に多角的にとらえるようにしよう。</p> <p>○ノートをとる時には、板書事項だけでなく、気づいたことや教師の話をメモするようにしよう。</p> <p>○毎日のニュースに触れ、社会や世界に関心を持とう。あなたも世界のひとりです。</p>				
教科書・教材等	<p>○教科書『高等学校世界史A』（第一学習社） プリント 副教材『世界史Aノート』（第一学習社）</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1編 世界史へのいざない	①自然環境と歴史	6	○地理との関連により歴史に対する関心を高め、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることについて考察する。 ○日本の歴史と世界の歴史とのつながりを理解する。
5	第2編 世界の一体化と日本	①ユーラシアの諸文明	8	・東アジア ・南アジア ・東南アジア ・西アジア ・ヨーロッパ ・アフリカ ・アメリカ ・ユーラシアの海の交流
6		②結びつく世界と近世の日本	8	・ユーラシアの陸の交流 ○14世紀から18世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め、アジア諸地域の特質と其中での日本の位置づけを理解する。
7			8	
8			8	
9		③ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	8	○イギリスの産業革命の背景を世界史的視野からとらえ、産業革命の結果、資本主義経済が確立したことを理解する。 ○ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め、その歴史的意義を考察する。
10		④アジア諸国の変貌と近代の日本	8	○アジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の観点から追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察する。
11	第3編 地球社会と日本	①帝国主義の時代	8	○帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したかを追究する。
12		②急変する人類社会	6	○19世紀末から20世紀初頭にかけての社会の急激な変化について現代の社会と関連付けながら考察する。
1		③世界戦争と平和	6	○二つの世界大戦の原因や経過、さらにはその結果について多角的に考察し、世界戦争の性格や意味を理解する。
2		④三つの世界と日本の動向	6	○東西冷戦・第三世界の台頭など、1970年頃までの世界の政治・経済の動向を考察する。
3		⑤地球社会への歩みと課題	8	○1970年代以降の東欧諸国の民主化・ソ連の社会主義体制崩壊など、その歴史的意義を多角的に考察し、現代社会の問題点を把握する。
		⑥持続可能な社会への展望	6	○現代社会の特質や課題について自ら課題を設定し、主体的な探究を通して、歴史的視野から持続可能な社会の実現について展望する。 *時数の関係で、割愛する单元もある。

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2単位
対象学年	第1学年(特別進学コースI類・II類)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1 現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。</p> <p>2 資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方(スキル)を身につける。</p> <p>3 現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。</p>				
学習内容の概要	<p>1. 現代社会の課題について調査し、考察することにより、人間としての在り方生き方について認識する。</p> <p>①地球環境と資源・エネルギー問題 ②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活</p> <p>2. 現代社会の特質・青年期の諸課題について学び、主体的な青年期の在り方について考察する。</p> <p>①現代社会と青年の生き方 ②近代的科学の考え方・人間の尊厳等</p> <p>3. 日本国憲法と民主政治に関して、自らの生活と関連付けながら学習する。</p> <p>①民主政治 ②基本的人権の保障 ③日本の政治機構 ④現代政治の特質と課題 ⑤法の支配</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>① 関心・意欲・態度・ ・現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする</p> <p>② 知識・理解 ・ ・現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用への態度を身につけている。</p> <p>③ 技能・表現 ・ ・役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。</p> <p>* 定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>(授業)</p> <p>*授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることも忘れず、習慣化しよう。</p> <p>*授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がけよう。</p> <p>*プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理しておこう。</p> <p>(家庭学習)</p> <p>*予習は特に必要ありませんが、テレビ・インターネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしよう。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『現代社会』(東京書籍)</p> <p>各種のプリント</p> <p>副教材『現代社会ワークノート』(東京書籍)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・留意点・評価等
4	◎私たちの生きる社会	テーマ1 地球環境と資源・エネルギー テーマ2 科学技術の発達と生命 テーマ3 情報化の進展と生活	6	○三つのテーマについては、身近な生活とも関連付けて考えるようにする。 ○三つの「クローズアップ」の課題について、幸福、正義、公正の観点から考える。 ○身近な例や統計資料等も用いて整理する。
5	◎現代社会と青年の生き方	①現代社会の特質 ②現代社会における青年 ③自己形成と社会 ④進路と生きがいの創造	8	○青年期の特質と課題を自分自身の課題と付き合わせて考える。 ○キャリアの開発について、自分自身の問題として意識的に考える。
6	◎よりよく生きることを求めて	①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 ⑤人間性の回復を求めて ⑥日本の伝統思想の考え方 ⑦外来思想の受容と日本人の自覚	8	○思想家に共通しているものと異なっているものは何か考える。 ○近代にける理性の信頼とその後の合理主義への反省の流れを整理する。 ○日常の言葉遣いに日本的なものの考え方が示されていないか考える。 ○外来思想の受容という点から儒教、国学、明治期の思想を整理する。
7	◎民主政治とは	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制	8	○民主政治の基本的な考え方を理解する。 ○基本的人権保障の流れについておさえる。 ○世界の政治体制を比較しながら整理する。
8				
8	◎日本国憲法の基本原理	①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障 ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障	8	○大日本帝国憲法と日本国憲法とを比較しながら整理する。 ○自由権・社会権の意義について考える。
9	◎日本政治機構	①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治	8	○日本の安全保障にかかわる報道を調べて整理する。 ○ニュースなどの情報を用いて、国会や内閣や裁判所の動きについて調べる。
10				
11	◎現代政治の特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加	6	○市町村や都道府県などで、どのような政治が行われているか調べる。 ○最近行われた選挙に関する報道などを参考に調べる。 ○政党の動きなどのニュースを調べる。
12	◎個人の尊重と法の支配	①法の支配と人権 ②市民生活と法 ③司法と人権 ④他者とともに生きる	6	○身近な事柄にかかわる法について調べる。 ○刑事裁判における証拠や証言などの意味について考える。
1				
2			8	
3			6	

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	3単位
対象学年	第1学年(進学・総合)		履修形態	必修	
科目の目標	1 現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。 2 資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方(スキル)を身につける。 3 現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。				
学習内容の概要	1. 現代社会の課題について調査し、考察することにより、人間としての在り方生き方について認識する。 ①地球環境と資源・エネルギー問題 ②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活 2. 現代社会の特質・青年期の諸課題について学び、主体的な青年期の在り方について考察する。 ①現代社会と青年の生き方 ②近代的科学の考え方・人間の尊厳等 3. 日本国憲法と民主政治に関して、自らの生活と関連付けながら学習する。 ①民主政治 ②基本的人権の保障 ③日本の政治機構 ④現代政治の特質と課題 ⑤法の支配				
評価の観点・評価の方法	③ 関心・意欲・態度・ 現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする ④ 知識・理解 現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。 ③ 技能・表現 役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。 * 定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	(授業) *授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることも忘れず習慣化しよう。 *授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がけよう。 *教科書をしっかり読み、ゴシックの箇所は暗記する。 (家庭学習) *予習は特に必要ありませんが、テレビ・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしよう。				
教科書・教材等	教科書『高等学校 新現代社会』(帝国書院) 各種のプリント 副教材『新現代社会ノート』(帝国書院)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・留意点・評価等
4	◎現代社会の諸課題とそのとらえ方	テーマ1 環境 テーマ2 生命 テーマ3 情報	9	○三つのテーマについては、身近な生活とも関連付けながら、幸福、正義、公正の観点から考える。
5	◎青年期の意義	①私たちの生きる時期 ②私たちが抱く悩み	12	○身近な例や統計資料等も用いて整理する。 ○青年期の特質と課題を自分自身の課題と付き合わせて考える。 ○キャリアの開発について、自分自身の問題として意識的に考える。
6	◎よく生きるとは	①生きること ②学ぶこと ③宗教 ④日本人の思想 ⑤日本の伝統と文化	12	○思想家に共通しているものと異なっているものは何か考える。 ○宗教の意義と基本的な教えを理解する。
7	◎民主社会の原理と日本国憲法	①近代立憲主義とは ②日本国憲法 ③平等権 ④自由権 ⑤社会権、参政権 ⑥その他の人権	12	○日本の伝統と外来思想の受容という点から儒教、国学、明治期の思想を整理する。 ○憲法の意義を理解する。 ○大日本帝国憲法と日本国憲法とを比較しながら整理する。
8			12	○基本的人権保障の流れについておさえる。
9			12	○自由権・社会権の意義について考える。
10			12	
11	◎日本の政治機構と政治参加	①国民主権と議会民主主義 ②国会 ③内閣 ④世界の政治体制 ⑤司法 ⑥地方自治	12	○民主政治の基本的な考え方を理解する。 ○ニュースなどの情報を用いて、国会や内閣や裁判所の動きについて調べる。
12			9	○世界の政治体制を比較しながら整理する。
1			9	○市町村や都道府県などで、どのような政治が行われているか調べる。
2		⑦政党政治	12	○政党の動きなどのニュースを調べる。
3		⑧選挙制度 ⑨平和主義と防衛政策 ⑩日本の安全保障	9	○最近行われた選挙に関する報道などを参考に調べる。 ○日本の安全保障にかかわる報道を調べて整理する。

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2単位
対象学年	第1学年(生活教養科)		履修形態	必修	
科目の目標	1 現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。 2 資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方(スキル)を身につける。 3 現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。				
学習内容の概要	1. 現代社会の課題について調査し、考察することにより、人間としての在り方生き方について認識する。 ①地球環境と資源・エネルギー問題 ②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活 2. 現代社会の特質・青年期の諸課題について学び、主体的な青年期の在り方について考察する。 ①現代社会と青年の生き方 ②近代的科学の考え方・人間の尊厳等 3. 日本国憲法と民主政治に関して、自らの生活と関連付けながら学習する。 ①民主政治 ②基本的人権の保障 ③日本の政治機構 ④現代政治の特質と課題 ⑤法の支配				
評価の観点・評価の方法	⑤ 関心・意欲・態度・現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする ⑥ 知識・理解 ・現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。 ③ 技能・表現 ・役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。 * 定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。				
学習方法	(授業) *授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることも忘れず習慣化しよう。 *授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がけよう。 *教科書をしっかり読み、ゴシックの箇所は暗記する。 (家庭学習) *予習は特に必要ありませんが、テレビ・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしよう。				
教科書・教材等	教科書『高等学校 新現代社会』(帝国書院) 各種のプリント 副教材『新現代社会ノート』(帝国書院)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・留意点・評価等
4	◎現代社会の諸課題とそのとらえ方	テーマ1 環境 テーマ2 生命 テーマ3 情報	6	○三つのテーマについては、身近な生活とも関連付けながら、幸福、正義、公正の観点から考える。
5	◎青年期の意義	①私たちの生きる時期 ②私たちが抱く悩み	8	○身近な例や統計資料等も用いて整理する。 ○青年期の特質と課題を自分自身の課題と付き合わせて考える。 ○キャリアの開発について、自分自身の問題として意識的に考える。
6	◎よく生きるとは	①生きること ②学ぶこと ③宗教 ④日本人の思想 ⑤日本の伝統と文化	8	○思想家に共通しているものと異なっているものは何か考える。 ○宗教の意義と基本的な教えを理解する。
7			8	○日本の伝統と外来思想の受容という点から儒教、国学、明治期の思想を整理する。
8	◎民主社会の原理と日本国憲法	①近代立憲主義とは ②日本国憲法 ③平等権 ④自由権 ⑤社会権、参政権 ⑥その他の人権	8	○憲法の意義を理解する。 ○大日本帝国憲法と日本国憲法とを比較しながら整理する。
9			8	○基本的人権保障の流れについておさえる。
10			8	○自由権・社会権の意義について考える。
11	◎日本の政治機構と政治参加	①国民主権と議会民主主義 ②国会 ③内閣 ④世界の政治体制 ⑤司法 ⑥地方自治	8	○民主政治の基本的な考え方を理解する。 ○ニュースなどの情報を用いて、国会や内閣や裁判所の動きについて調べる。
12			6	○世界の政治体制を比較しながら整理する。
1			6	○市町村や都道府県などで、どのような政治が行われているか調べる。
2		⑦政党政治	8	○政党の動きなどのニュースを調べる。
3		⑧選挙制度 ⑨平和主義と防衛政策 ⑩日本の安全保障	6	○最近行われた選挙に関する報道などを参考に調べる。
		次年度へ継続		○日本の安全保障にかかわる報道を調べて整理する。

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	4 単位
対象学年	第 1 学年 (特別進学コース I・II 類)		履修形態	必修	
科目の目標	方程式と不等式、2 次関数及び図形と計量について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。				
学習内容の概要	<p>(1) 数と式 数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 ア 式の計算 イ 実数 ウ 二次方程式</p> <p>(2) 二次関数 二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ア 二次関数とそのグラフ イ 二次関数の値の変化 ウ 二次不等式</p> <p>(3) 図形と計量 直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ア 三角比 イ 三角形への応用</p> <p>(4) データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し応用できる。 ア データの散らばり イ データの相関</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の 4 つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、授業の準備、学習態度、自己評価、提出物・ノート点検、確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。また、読んで分かったつもりや、説明されて分かったつもりでも、いざ自分で解いてみるとどこかでつまずいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。</p> <p>授業中大切だと思うことはノートに記入し、後で思い出せるようノートの取り方を工夫するとよい。また、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないよう心がけよう。</p>				
教科書・教材等	教科書…改訂版 新編数学 I (数研出版株式会社) 副教材…3 TRIAL 数学 I + A (数研出版編集部) (I・II 類) チャート式 解法と演習 数学 I + A (数研出版株式会社) (I・II 類)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章数と式 第1節式の計算	1 整式の加法・減法 2 多項式の乗法 3 因数分解	1 2	整式に関する用語、および整式の加法、減法、乗法について復習する。整式の展開および因数分解について復習し、さらにやや複雑な式の展開・因数分解について学習する。
5	第2節実数	4 実数 5 根号を含む式の計算	1 6	有理数を循環小数で表すことについて考察する。実数の分類、実数の演算について整理する。平方根を含む式の計算を練習し、分母の有理化について理解する。
6	第3節1次不等式	6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	1 6	不等式の性質について理解させる。不等式の解について理解を深め、1次不等式、連立1次不等式の解を求められるようにする。絶対値の概念を理解し、絶対値を含む方程式、不等式が解けるようにする。
7	第2章 2次関数 第1節2次関数とグラフ	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	1 6	集合の概念について理解を深め、ド・モルガンの法則について学ぶ。有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合とない場合に分けて学ぶ。また、命題と条件、必要条件・十分条件、条件と集合の関係について学ぶ。命題の逆、対偶、対偶を利用する証明法、背理法について学び、論理的に考える力をつける。
8	第2節2次関数の値の変化	5 2次方程式 6 2次関数とx軸の位置関係 7 2次不等式	1 6	関数の概念を理解させる。平行移動を用いて、2次関数の性質(放物線であるそのグラフの頂点や軸など)を理解する。2次関数の最大値・最小値が求められるようにし、具体的な事柄について応用ができるようにする。グラフに関する条件から、2次関数を決定できるようにする。
9	第3章 図形と計量 第1節三角比	1 三角比	1 6	2次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求めることを通して、2次方程式の解の図形的意味を理解する。2次関数のグラフとx軸との共有点の個数と、2次方程式の実数解の個数の関連について理解する。2次関数グラフを用いて、2次不等式の解を求められるようにする。連立不等式を数直線を使って解けるようにする。
10	第2節三角形への応用	2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理	1 6	三角比としてのタンジェント、サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺と角との間の基本的な関係を使えるようにする。三角比を鈍角まで拡張し、三角比相互の基本的関係を応用できるようにする。
11	第3節図形の計量	6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	1 6	一般の三角形の辺と角との間に成立する正弦定理、余弦定理と、三角形の面積を求める公式を導き、それらを活用できるようにする。平面図形、空間図形における線分の長さ、角の大きさ、面積、体積の計算に三角比を応用する。
12	第4章データの分析 問題演習	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関	1 2	データをもとに、その集団がどのような特性を有しているのかを整理、代表値、データの散らばり、相関等を考え考察していく。
1		6 表計算ソフトによるデータの分析	1 2	
2			1 6	
3	問題演習		1 2	

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3 単位
対象学年	第 1 学年（進学・総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	方程式と不等式，二次関数及び図形と計量について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。				
学習内容の概要	<p>(1) 方程式と不等式 数を実数まで拡張することの意義を理解し，式の見方を豊かにするとともに，一次不等式及び二次方程式についての理解を深め，それらを活用できるようにする。 ア 数と式 (ア) 実数 (イ) 式の展開と因数分解 イ 一次不等式 ウ 二次方程式</p> <p>(2) 二次関数 二次関数について理解し，関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに，それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ア 二次関数とそのグラフ イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 (イ) 二次不等式</p> <p>(3) すららネットの活用・既習内容に対する復習 週一時間，すららネットを活用して個別学習に取り組む。中学校の既習内容も含めて，理解が不十分な内容について復習をし，基礎的な内容の理解を図る。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(5) 関心・意欲・態度 (6) 数学的な見方や考え方 (7) 表現・処理 (8) 知識・理解</p> <p>の 4 つの観点について，以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況，学習態度，授業の準備，自己評価，提出物・ノート点検 確認テスト，四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し，それに従って考えを進める努力と，いろいろな考え方を工夫してみることが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き，別解や重要事項も記入できるよう，余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず，授業を大切に，積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 e-learning 教材「すらら」を活用し，生徒一人ひとりに応じた確かな学力の獲得を支援する。 家庭では，理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また，問題集などを通して理解度をはかり，その日学んだ内容をより確かなものにしておく。</p>				
教科書・教材等	教科書・新編数学 I（東京書籍株式会社） 副教材・改訂版ニューアシスト新編数学 I（東京書籍）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1章 数と式 1節 式の計算	1 整式	9	整式に関する用語、および整式の加法、減法、乗法について復習する。整式の展開及び因数分解について復習し、さらにやや複雑な式の展開・因数分解について学習する。
5		2 整式の加法・減法・乗法	12	
6	2章 方程式と不等式 1節 1次不等式	3 因数分解	12	有理数について復習する。また、有理数を循環小数で表すことについて考察する。実数の分類、実数の演算について整理する。数直線、および実数の絶対値について学習する。平方根を含む式の計算をし、分母の有理化について理解する。
7		1 実数 2 平方根を含む式の計算		
8	2節 2次方程式	1 不等式の性質	12	不等式について理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができるようにする。不等式の解について理解を深め、連立1次不等式の解を求めることができるようにする。
9		2 1次不等式 3 1次不等式の応用		
10	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	1 2次方程式の解法	12	2次方程式およびその解について理解を深め、因数分解、平方完成、解の公式で2次方程式を解くことができるようにする。2次方程式の実数解に着目し、その個数について調べることができるようにする。
11		2 解の公式	12	
12		3 2次方程式の実数解の個数	12	
1		4 2次方程式の応用	12	
1	2節 2次関数のグラフと2次不等式	1 関数	9	関数のグラフの意味について考察する。関数の定義域・値域について理解する。平行移動を用いて2次関数のグラフを考え、その性質（放物線であるそのグラフの頂点や軸）を理解する。2次関数の最大値・最小値が求められるようにする。グラフに関する条件から、2次関数を決定できるようにする。
2		2 2次関数	9	
3		3 2次関数の最大・最小	9	
2		4 2次関数の決定	12	2次関数のグラフとx軸との共有点を求めることを通して、2次方程式の解の図形的意味を理解する。2次関数のグラフと2次方程式の実数解の個数の関連について理解する。2次関数のグラフを用いて、2次不等式の解を求める。
3		1 2次関数のグラフとx軸の共有点	9	
		2 2次不等式(1)	9	
		3 2次不等式(2)	12	
			9	

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	3 単位
対象学年	第 1 学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	小学校から中学校までの復習を取り混ぜながら、数と式、方程式と不等式、2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。				
学習内容の概要	<p>プレリユード 1 数の計算 2 式の計算 3 方程式 中学校までの復習をし、高校数学への橋渡しをする。</p> <p>1章 数と式 中学校までの復習をしながら、数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにする。</p> <p>1節 整式 1 文字を使った式 2 整式 3 整式の加法・減法 4 整式の乗法 5 乗法公式 6 因数分解</p> <p>2節 実数 1 数の分類 2 根号を含む式の計算</p> <p>3節 方程式と不等式 1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の性質 4 不等式の解き方 5 不等式的应用 6 2次方程式とその解き方</p> <p>2章 2次関数 2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。</p> <p>1節 2次関数とそのグラフ 1 関数 2 2次関数とそのグラフ</p> <p>2節 2次関数の値の変化 1 2次関数の最大値・最小値 2 2次関数のグラフと2次方程式 3 2次関数のグラフと2次不等式</p> <p>すらすらネットの活用・既習内容に対する復習 週一時間、すらすらネットを活用して個別学習に取り組む。中学校の既習内容も含めて、理解が不十分な内容について復習をし、基礎的な内容の理解を図る。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(9) 関心・意欲・態度 (10) 数学的な見方や考え方 (11) 表現・処理 (12) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫することが大切である。</p> <p>まず、授業を大切に、授業中大切だと思う点はノートに記入し、後で思い出せるようノートの取り方を工夫するとよい。また、積極的に先生や友達に質問をして、理解できていない問題を放置しないよう心がけよう。</p> <p>また、読んで分かったつもりや説明されて分かったつもりでも、いざ自分で解いてみると、どこかでつまづいたりするものである。自分でスムーズに問題が解けるまで努力をしよう。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書…新数学 I (東京書籍株式会社) 副教材…改訂版ニューファースト 新数学 I (東京書籍編集部)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	プレリユード	1. 数の計算 2. 式の計算 3. 方程式	9	小学校・中学校の基本的な内容を復習し、高校数学の基礎を固める。
5	1章 数と式 1節 整式	1 文字を使った式 2 整式 3 整式の加法・減法	12	文字の扱いの基本を復習し、次数、係数、降べきの順など用語の意味を理解する。 乗法公式を学び、式の展開が自由にできるようにする。
6		4 整式の乗法 5 乗法公式 6 因数分解 復習問題	12	基本的な因数分解の公式を学び、基本的な式変形の能力を身につける。
7	2節 実数	1 数の分類 2 根号を含む式の計算 復習問題	12	数を系統的に分類して理解できるようにする。 平方根の定義を確認し、根号を含む式の基本的な四則演算ができるようにする。
8	3節 方程式と不等式	1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の性質 4 不等式の解き方 5 不等式の応用 6 2次方程式とその解き方 復習問題	12	不等号の意味と、不等式の基本的な性質を学び、1次不等式の解法について学ぶ。 因数分解や平方根をとる処理で解ける場合を学ぶ。 解の公式の成り立ちを理解し、正確に運用できるようにする。 基本的な連立不等式の解法とともに、数直線への理解も深める。
10	2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	1 関数 2 2次関数とそのグラフ 復習問題	12	身近な例から関数の発想を導き、関数の基本的な用語を理解する。2次関数のグラフを順次理解させ、グラフが自由にかけられるようにする。
11			12	
12	2節 2次関数の値の変化	1 2次関数の最大値・最小値 2 2次関数のグラフと2次方程式 3 2次関数のグラフと2次不等式 復習問題	9 9	グラフをかくことで、最大・最小を簡単に求められるようになることを理解させ、数学的な考え方の有用さを学ぶ。 グラフと方程式の解との関係を理解させ、双方への理解が深まるようにする。
1				
2	問題演習		12	1章・2章の総復習をする。
3			9	

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位
対象学年	第1学年(特別進学コース I・II 類)		履修形態	必修	
科目の目標	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 場合の数と確率 1 場合の数, 2 確率 集合の要素の個数を求められるようにする。場合の数の意味を理解し, 和の法則・積の法則を利用して, 能率的に場合の数を求められるようにする。順列, 円順列, 重複順列, 組合せ, 同じものを含む順列の意味とその総数を求めることを理解する。また, 確率の基本性質, 余事象の確率を理解し, これらを利用して確率の計算ができるようにする。試行の独立, 反復試行, 条件つき確率の意味の意味を理解し, これを用いて確率の計算ができるようにする。また, それを事象の考察に活用することができるようにする。</p> <p>(2) 図形の性質 1 平面図形, 2 空間図形 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深める。円周角の定理とその逆, 円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件, 円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質, 方べきの定理及び2つの円の位置関係について学び, それらを活用できるようにする。平面と直線の位置関係, 平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。正多面体が5つしかないことを, オイラーの多面体定理を学びその理由を考える。</p> <p>(3) 整数の性質 1 約数と倍数, 2 ユークリッドの互除法, 3整数の性質の活用 倍数と倍数について学ぶ。ユークリッドの互除法を用い最大公約数を求める最良の方法を学ぶ。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(13) 関心・意欲・態度 (14) 数学的な見方や考え方 (15) 表現・処理 (16) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について, 以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況, 学習態度, 授業の準備, 自己評価, 提出物・ノート点検 確認テスト, 四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し, それに従って考えを進める努力と, いろいろな考え方を工夫してやる事が大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き, 別解や重要事項も記入できるよう, 余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず, 授業を大切にし, 積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では, 理解不十分だったと思われる問題を解けるまで再度復習をすること。また, 問題集などを通して理解度をはかり, その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書……新編数学A(数研出版) 副教材……3TRIAL 数学 I + A (数研出版編集部) チャート式 解法と演習 数学 I + A (数研出版)</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 場合の数と確率			<p>有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合とない場合に分けて学び、具体的な事象の考察にいかす。和の法則・積の法則、順列、円順列、重複順列について学び、もれなく重なりなく要領よく数える方法を身につける。また組合せや同じものを含む順列について学び、論理的に考える力を養うとともに、記号の有用性を理解する。試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識する。和事象・積事象、排反事象、余事象、確率の基本性質、確率の加法定理について、集合と関連づけながら学び、事象を数学的に考察し処理できるようにする。独立な試行、反復試行の確率の学習を通して、具体的な事象を数学的に考察し処理する力を伸ばす。</p> <p>三角形の辺と角の大小関係、内分と外分、三角形の角の二等分線、重心・外心・内心について学び、図形について理解を深めるとともに、直観力・洞察力を養い、論理的に考察できるようにする。円周角、円周角の定理の逆、内接する四角形などについて学ぶ。円と接線、接線と弦のつくる角、方べきの定理、2つの円について学び、活用していくことを通して、図形の性質の美しさをあじわったり、論理的な思考力を養う。</p> <p>素因数分解から約数の個数や最大公約数・最小公倍数を求めることができる。ある数の倍数を文字式で表現し、整数の性質を調べ、結果を解釈できる。ユークリッドの互除法は整数の除法の性質に基づいているという仕組みを理解し活用する。ユークリッドの互除法を活用し $ax+by=1$ の形の二元一次方程式の特殊解を求める。数を表す仕組みを理解し、n進法での表示や数の計算ができるようにする。</p>
5	第1節 場合の数	1.集合の要素の個数 2.場合の数 3.順列	6 8	
6		4.組合せ	8	
7	第2節 確率	5.事象と確率	8	
8		6.確率の基本性質 7.独立な試行と確率 8.条件付き確率 演習		
9	第2章 図形の性質			
10	第1節 平面図形	1.三角形の辺の比 2.三角形の外心・内心・重心 3.チェバの定理・メネラウスの定理	8 8	
11		4.円に内接する四角形 5.円と直線 6.2つの円 7.作図	8	
12	第2節 空間図形	8.直線と平面 9.空間図形と多面体 演習	6	
1	第3章 整数の性質			
2	第1節 約数と倍数	1.約数と倍数 2.最大公約数・最小公倍数 3.整数の割り算と商・余り 4.ユークリッドの互除法	6	
3	第2節 ユークリッドの互除法	5.1次不定方程式 6.分数と小数	8	
3	第3節 整数の性質と活用	7. n 進法	6	

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2単位
対象学年	第1学年(進学・総合コース)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>(1) 場合の数と確率 1 場合の数, 2 確率 集合の要素の個数を求められるようにする。場合の数の意味を理解し, 和の法則・積の法則を利用して, 能率的に場合の数を求められるようにする。順列, 円順列, 重複順列, 組合せ, 同じものを含む順列の意味とその総数を求めることを理解する。また, 確率の基本性質, 余事象の確率を理解し, これらを利用して確率の計算ができるようにする。試行の独立, 反復試行, 条件つき確率の意味の意味を理解し, これを用いて確率の計算ができるようにする。また, それを事象の考察に活用することができるようにする。</p> <p>(2) 図形の性質 1 平面図形, 2 空間図形 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深める。円周角の定理とその逆, 円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件, 円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質, 方べきの定理及び2つの円の位置関係について学び, それらを活用できるようにする。平面と直線の位置関係, 平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。正多面体が5つしかないことを, オイラーの多面体定理を学びその理由を考える。</p> <p>(3) 整数の性質 1 約数と倍数, 2 ユークリッドの互除法, 3整数の性質の活用 倍数と倍数について学ぶ。ユークリッドの互除法を用い最大公約数を求める最良の方法を学ぶ。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について, 以下のものを材料として総合的に評価する。 出欠状況, 学習態度, 授業の準備, 自己評価, 提出物・ノート点検 確認テスト, 四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し, それに従って考えを進める努力と, いろいろな考え方を工夫して試みる ことが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き, 別解や重要事項も記入できるよう, 余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず, 授業を大切にし, 積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では, 理解不十分だったと思われる問題を解けるまで再度復習をすること。また, 問題集などを通して理解度をはかり, その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書……新編数学A(東京書籍) 副教材……ニューアシスト 新編数学A(東京書籍)</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 場合の数と確率			<p>有限集合の要素の個数について、共通部分がある場合とない場合に分けて学び、具体的な事象の考察にいかす。和の法則・積の法則、順列、円順列、重複順列について学び、もれなく重なりなく要領よく数える方法を身につける。また組合せや同じものを含む順列について学び、論理的に考える力を養うとともに、記号の有用性を理解する。試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識する。和事象・積事象、排反事象、余事象、確率の基本性質、確率の加法定理について、集合と関連づけながら学び、事象を数学的に考察し処理できるようにする。独立な試行、反復試行の確率の学習を通して、具体的な事象を数学的に考察し処理する力を伸ばす。</p> <p>三角形の辺と角の大小関係、内分と外分、三角形の角の二等分線、重心・外心・内心について学び、図形について理解を深めるとともに、直観力・洞察力を養い、論理的に考察できるようにする。円周角、円周角の定理の逆、内接する四角形などについて学ぶ。円と接線、接線と弦のつくる角、方べきの定理、2つの円について学び、活用していくことを通して、図形の性質の美しさをあじわうなど、論理的な思考力を養う。</p> <p>素因数分解から約数の個数や最大公約数・最小公倍数を求めることができる。ある数の倍数を文字式で表現し、整数の性質を調べ、結果を解釈できる。ユークリッドの互除法は整数の除法の性質に基づいているという仕組みを理解し活用する。ユークリッドの互除法を活用し $ax+by=1$ の形の二元一次方程式の特殊解を求める。数を表す仕組みを理解し、n進法での表示や数の計算ができるようにする。</p>
5	第1節 場合の数	1.集合の要素の個数	6	
6		2.場合の数	8	
7		3.順列	8	
8	第2節 確率	4.組合せ	8	
9		5.事象と確率	8	
10		6.確率の基本性質		
11		7.独立な試行と確率		
12		8.条件付き確率 演習		
1	第2章 図形の性質		8	
2	第1節 平面図形	1.三角形の辺の比	8	
3		2.三角形の外心・内心・重心	8	
4		3.チェバの定理・メネラウスの定理	8	
5		4.円に内接する四角形	8	
6		5.円と直線	8	
7		6.2つの円	8	
8		7.作図	8	
9	第2節 空間図形	8.直線と平面	6	
10		9.空間図形と多面体 演習		
11	第3章 整数の性質			
12	第1節 約数と倍数	1.約数と倍数	6	
1		2.最大公約数・最小公倍数	6	
2		3.整数の割り算と商・余り	6	
3	第2節 ユークリッドの互除法	4.ユークリッドの互除法	8	
4		5.1次不定方程式	8	
5	第3節 整数の性質と活用	6. 分数と小数	6	
6		7. n 進法	6	

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年(特別進学コースⅠ・Ⅱ類)		履修形態	必修	
科目の目標	身近に生じる物理的な現象・事物についての観察、実験などを通して考察し、基本的な原理・法則を理解するとともに、科学的に探究する態度や自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(1) 力と運動 日常に起こる物体の運動に関する共通した法則性や、その変化について力との関係などを法則とともに探究する。</p> <p>(2) エネルギー 物理における仕事とエネルギーの関係や温度の定義、熱の特徴とエネルギー量の測定、算出、さらにエネルギーどうしの変換などを法則とともに探究する。</p> <p>(3) 波動 いろいろな波についての特徴と共通性を考える。それらの伝わり方や進み方、反射などを、それぞれの現象をもとに探究し、理解する。</p> <p>(4) 電気 日常生活の中で利用している電気や磁気の性質を観察や実験で確かめ、その法則や原理を理解し、その応用や日常生活とのかかわりについて学習する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は自然の事象に対する関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方を総合的に見る。</p> <p>評価は定期考査、小テスト、出席状況、課題・レポート等の提出物、授業態度等によって総合的に行う。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いたセンター試験対応の問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「高等学校 新物理基礎」(第一学習社) 問題集 「ネオパルノート物理基礎」(第一学習社)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物体の運動	速度 加速度 落下運動	6	速度と加速度の違い、相対的な速度表現、重力と落下の運動の関係を数式で表し計算する。
5	力の働きとつり合い	さまざまな力 力の合成・分解とつりあい	8	いろいろな力の性質とその扱い方を理解し、運動方程式により、力が働くときの物体の運動を解析する。
6	運動の法則	運動の3法則 運動方程式の利用 抵抗力を受ける運動	8	仕事とその原理、仕事率の理解と道具の意義を考える。
7	仕事と力学的エネルギー	仕事と仕事率 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー	8	運動・位置エネルギーと仕事の関係を理解し、計算に慣れる。また、その保存の法則を理解する。
8			8	
9			8	
10	熱とエネルギー	熱と温度 エネルギーの変換と保存 気体の圧力・温度・体積	8	熱による温度変化・状態変化と仕事の関係を把握する。気体の変化と熱力学法則及び電気と熱エネルギーの変換と保存の法則を考察する。
11	波の性質	波の表し方とその要素 波の重ねあわせ	8	波の性質、横波と縦波の違い、重ねあわせの原理を理解し波動の変化を探る。
12	音波	音の伝わり方 物体の振動	6	音の速さ、弦の振動、反射、干渉、うなり、共振、共鳴などを波としての音で考える。
1	静電気と電流	静電気 電流と抵抗 直流回路 電気エネルギー	6	静電気とその発生、電荷と電気量、オームの法則、陰極線と電子の流れを関連して学習する。
2	電流と磁場	磁場 モーターと発電機 交流と電磁波	8	磁石と磁場、磁力線、電磁石と電流モーターの仕組みなどの関係を調べる。交流と直流の違い、交流電圧、相互誘導とトランスの仕組みなどを理解する。
3	エネルギーとその利用	太陽エネルギーと化石燃料 原子力エネルギー	6	太陽エネルギーの直接的・間接的利用と、原子核から発生するエネルギーについて理解する。

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。</p> <p>(2) 遺伝子とその働き 生物と遺伝子について探求し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。</p> <p>(3) 生物の体内環境の維持 生物の体内環境の維持について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(4) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物基礎 新訂版」 (実教出版) 問題集 「ベストフィット 生物基礎」 (実教出版)</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	探求活動の仕方	探求活動の仕方について学ぶ。	6	フックによる細胞発見の過程を参考にしてあてはめ、探求活動の仕方を理解する。
5	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	8	現存する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。
6	細胞とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。
7	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。
8	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
9				
10	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。
	体内環境と恒常性	体内環境が保たれている仕組みを理解する。		循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
11	体内環境の維持の仕組み	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。
12	免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。
1	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
2			8	
3	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年（進学・総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察・実験を行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 地球の構成と運動 生徒にとって一番身近な惑星である地球の形や大きさなど特徴について理解し、地表や地球の構造を学ぶ。</p> <p>(2) 地球の変遷 変動する地球の変遷を学び、生物の進化・繁栄の多様性を理解する。</p> <p>(3) 大気と海洋 私たちをとりまく自然について理解し、地球の環境の変化と人間生活の相互的なかかわりについて考察する。</p> <p>(4) 太陽系と宇宙 地球を中心として太陽や惑星について学び、宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。</p> <p>(5) 地球の環境 日本列島並びに地球全体の自然環境について理解し、その恩恵や災害、地球環境問題など自然環境と人間生活の関わりについて探求する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は自然の事象に対する関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方を総合的に見る。</p> <p>評価は定期考査、小テスト、出席状況、課題・レポート等の提出物、授業態度等によって総合的に行う。</p>				
学習方法	教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。 地球科学に関する観察・演習実験。				
教科書・教材等	教科書 「地学基礎 新訂版」(実教出版) 問題集 「地学基礎 新訂版 演習ノート」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	地球の構成と運動	地球の形と大きさ 地球内部の構成	6	地球の特徴や内部の構成を学び、地球表面の構造とその活動について理解する。
5		プレートの運動 火山と地震	10	火山のしくみと地球の構造との関わり、火成岩の構造のちがいについて理解し、その恩恵と防災について考察する。
6		地球の変遷 地層と化石 古生物の変遷と地球環境	10	変動しつつある地球の変遷を知ることを学び、生物の進化・繁栄と地球環境の変化がともにあることを理解する。
7	大気と海洋	大気の大循環	10	大気の大循環と地球全体の熱収支を理解し、地球規模で大気と海水に循環について考える。また、日本列島を取り巻く環境について理解する。
8		海洋の構造と海水の運動	8	
9		日本の四季の気象と気候	8	
10	太陽系と宇宙	太陽系の中の地球 太陽とその進化	8	太陽の表面で見られる現象とともに、エネルギー源・進化について考え、理解する。太陽系・惑星の形成過程を理解する。
11		宇宙のすがた	8	ビッグバンからどのようにして宇宙ができたのか。現在の宇宙の構造について理解する。
12			6	
1 2 3	地球の環境	日本の自然環境 地球環境の科学	14	自然環境の変化としくみを科学的に考察し、人間生活とどうかかわっているか理解し、現在ある様々な問題についてどのように関わっていくか探求する。

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	3単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察・実験を行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 地球の構成と運動 宇宙の誕生と銀河の分布について理解するとともに、太陽の表面の現象と太陽エネルギー源および恒星としての太陽の進化を探求する。</p> <p>(2) 地球の変動 太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴・形・大きさについて理解し、宇宙における地球を探求し、理解する。</p> <p>(3) 大気と海洋 変動する地球について、地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたことを理解し、地球の環境と人間生活の関わりについて考察する。</p> <p>(4) 太陽系と宇宙 地球を中心として太陽や惑星について学び、宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。</p> <p>(5) 地球の環境 地球環境の変化を科学的に考察し、日本の自然環境を理解する。そしてその恩恵や災害など自然環境と人間生活の関わりについて探求する</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は自然の事象に対する関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方を総合的に見る。</p> <p>評価は定期考査、小テスト、出席状況、課題・レポート等の提出物、授業態度等によって総合的に行う。</p>				
学習方法	デジタルコンテンツを用いた導入及び理解 教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 地球科学に関する観察・演示実験。				
教科書・教材等	教科書 「地学基礎 新訂版」(実教出版) 問題集 「地学基礎 新訂版 演習ノート」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	地球の構成と運動	地球の形と大きさ	9	地球の特徴を知る。地層や岩石の観察を行い褶曲、断層、不整合などについて理解し、地層や化石から過去の環境や時代を考察する。
5		地球の内部構造	12	
6		プレート運動 火山と地震	12	
7	地球の変遷	地層と化石	12	地震の発生と地球の構造、火山のしくみと地球の構造との関わり、火成岩の構造のちがいについて理解し、その恩恵と防災について考察する。
8		古生物の変遷と地球環境	12	
9	大気と海洋	大気と運動	12	古生物の変遷と地球環境の変化の関わりを理解し、大気の変化と生命活動の相互の関わりを考える。
10		大気の大循環	12	
11		海洋の構造と海水の運動 日本の四季の気象と気候	12	
12	太陽系と宇宙	太陽系の中の地球	9	地球規模で大気と海水に循環について理解し、1つの総体として生態系として考える。 日本の四季とその気象と地域的な気候の特徴を知り、地球規模のシステムの中で四季が形成されることを理解する。
1		太陽とその進化	9	
2	地球の環境	宇宙のすがた	6	太陽系・惑星の形成過程を、地球を中心に理解する。 太陽の表面で見られる現象とともに、エネルギー源・進化について考え、理解する。 ビッグバンから、どのようにして宇宙ができたのか。現在の宇宙の構造や将来について理解する。
3		日本の自然環境	8	
		地球環境の科学	6	自然環境の変化としくみを科学的に考察し、人間生活とどうかかわっているか理解し、現在ある様々な問題についてどのように関わっていくか探求する。

教科名	保健体育	科目名	体育 (体育)	単位数	2単位
対象学年	第1学年 (普通科)		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 集団行動 ② 体づくり運動 ③ ニュースポーツ ④ 運動会練習 ⑤ 球技 <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方 <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物 ② 思考・判断 (表現・創造)・・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力 ③ 運動の技能・知識・理解・・・・各単位の実技テスト・自己評価 <p>評価は各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 教師主導による実技を中心とした学習 ② グループ学習 (場合によっては習熟度別学習を行う) 				
教科書・教材等	現代高等保健体育 (大修館)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
	体づくり運動	トレーニング・ストレッチ体操・徒手体操	4	正しい測定の仕方を理解し、安全に留意してできるようにする。自己の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持ち実践できるようにする。
	新体力テスト	全9種目	7	
5	ニュースポーツ		8	様々なスポーツに触れ、生徒間の親睦を深める。
6	運動会種目練習		10	互いに協力したり補助したりして練習ができるようになる。
7				
8		空手（形）		互いに協力することで一つ一つの作品を完成させる 自己の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにする。
9	長距離	ペース走・駅伝	8	自己の役割を良く理解し、責任を果たし、互いに協力できるようにする。 体力増進とともに、安全に気を配りながら運動を行うことができる。
10	球技	バレーボール	10	ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようになる。
11		バドミントン	10	チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようになる。
12			10	ゲームが円滑に楽しくできるよう、ドリブルやシュートの練習を繰り返し行う。
1		バスケットボール	10	個人技能や集団技能を活用して、学習段階に応じた作戦を立てゲームをする。
2		卓球	10	チームにおける自己の役割を自覚して、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して練習やゲームの仕方を工夫する。
3				健康や安全に留意して練習やゲームができる。 攻守における基本動作や基本技術を練習し、ボールを意図的に扱ったり、相手からボールを奪うことができるようになる。 個人技能をより高めるとともに、集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようになる。

教科名	保健体育	科目名	体育（体育）	単位数	2単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 集団行動 ② 体づくり運動 ③ ニュースポーツ ④ 運動会練習 ⑤ 球技 <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方 <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物 ② 思考・判断（表現・創造）・・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力 ③ 運動の技能・知識・理解・・・・各単位の実技テスト・自己評価 <p>評価は各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 教師主導による実技を中心とした学習 ② グループ学習（場合によっては習熟度別学習を行う） 				
教科書・教材等	現代高等保健体育（大修館）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	<p>学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。</p> <p>集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。</p>	
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2		
	体づくり運動	トレーニング・ストレッチ体操・徒手体操	4		
5	新体力テスト	全9種目	7	<p>正しい測定の仕方を理解し、安全に留意してできるようにする。</p> <p>自己の体に関心を持ち、体力に応じた課題を持ち実践できるようにする。</p> <p>様々なスポーツに触れ、生徒間の親睦を深める。</p>	
	ニュースポーツ	空手（形）	8		
6	運動会種目練習		10	<p>互いに協力したり補助したりして練習ができるようにする。</p> <p>互いに協力することで一つ一つの作品を完成させる</p> <p>自己の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにする。</p>	
7					
8					
9	長距離	ペース走・駅伝	8	<p>自己の役割を良く理解し、責任を果たし、互いに協力できるようにする。</p> <p>体力増進とともに、安全に気を配りながら運動を行うことができる。</p>	
10	球技	バレーボール	10	<p>ゲームの特性を活かし、学習段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を活かしたゲームができるようにする。</p> <p>チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して練習やゲームができるようにする。</p> <p>ゲームが円滑に楽しくできるよう、ドリブルやシュートの練習を繰り返す。</p>	
11			バドミントン		10
12					
1		バスケットボール	10	<p>個人技能や集団技能を活用して、学習段階に応じた作戦を立てゲームをする。</p> <p>チームにおける自己の役割を自覚して、互いに協力して練習やゲームができるようにする。</p> <p>チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して練習やゲームの仕方を工夫する。</p> <p>健康や安全に留意して練習やゲームができる。</p> <p>攻守における基本動作や基本技術を練習し、ボールを意図的に扱ったり、相手からボールを奪うことができるようにする。</p> <p>個人技能をより高めるとともに、集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようにする。</p>	
2		卓球	10		
3					

教科名	保健体育	科目名	武道	単位数	1 単位
対象学年	第 1 学年 (全)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>空手の技ができる楽しさや喜びを味わい、様々な基本となる技を用いて、基本型やその他の型を演武することができるようになる。また、積極的に空手に取り組むとともに、相手を尊重し、技を当てないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>礼儀作法を学び、普段の生活からも</p>				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 姿勢 ② 礼儀作法 ③ 突き ④ 蹴り ⑤ 下段受け ⑥ 上段受け ⑦ 基本型① ⑧ 基本型② ⑨ 基本型③ ⑩ 型の発表 <p>武道は、我が国の伝統的な運動文化であり、1対1で相手と攻防する対人競技である。単に勝敗を競うだけでなく、日本の伝統的な考え方や相手を尊重する態度を重視して行うスポーツである。特に礼儀作法を重視し、競技結果にかかわらず、自己の感情を制御するとともに、相手を理解することで精神的修養をはかることができる。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 関心・意欲・態度・・・・・・・・空手の特性や成り立ちに関心を持ち、技ができる楽しさや喜びを味わうように進んで取り組もうとする。 ② 思考・判断 (表現・創造)・・・練習の取り組み方や運動の取り組み方を工夫している。 ③ 運動の技能・知識・理解・・・・・・・・基本となる技を用いて、基本型を演武することができる <p>評価は、各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教師主導による一斉授業とし、実技を中心とした学習。 グループ学習。</p>				
教科書・教材等	<p>空手道指導の手引</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	学校の教育活動全体や授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。
	立ち方	閉足立ち、結び立ち、平行立ち、外八字立ち	2	足の開き方だけではなく、全体の姿勢及び視線も意識させる。
	礼儀作法	座礼、立礼	2	相手に対して気持ちを込めて礼をする。
	突き	その場突き、順突き、逆突き	3	足の出し方及び気合を入れるように意識する。
	蹴り	前蹴り、横蹴り		
5	受け	下段受け、外受け、上段受け 手刀受け、	3	つま先の向き、足の振り上げ、蹴り足と引き足の形の意識
6	体育祭練習 基本型①		3	基本型を覚える。
7	基本型②		6	仲間と協力しながら、意識するポイントや気合の入れ方などを工夫させる。
8				相手が居る意識を持たせることでより実践的な形になることを理解し実践させる。
		3人チームの団体型練習		仲間と協力し、考え、教え合いながら課題の解決に向けた方法を見つける。
9	型の発表		4	お互いの課題を確認し合ったり、練習方法をアドバイスする。
10			4	
11			4	
12			2	
			2	
1			2	
2			2	
3			1	

教科名	保健体育	科目名	保 健	単位数	1 単位
対象学年	第 1 学年 (全)		履修形態	必 修	
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	<p>現代社会と健康</p> <p>我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を活かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。</p> <p>(1) 健康の考え方 (2) 健康の保持増進と疾病の予防 (3) 精神の健康 (4) 交通安全 (5) 応急手当</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>定期考査</p> <p>① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠状況・提出物・学習態度 ② 思考・判断・・・・・・・・発表 ③ 知識・理解・・・・・・・・自己評価</p>				
学習方法	<p>教科書の解説とノートの演習 グループ学習・・・・・・・・テーマについて意見交換 ビデオ学習</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 『現代保健体育』(大修館書店) 副読本 『図説 現代高等保健』(大修館書店) ビデオ</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1 単元 現代社会 と健康	(1) 健康の考え方 ・国民の健康水準 と疾病傾向	4	健康の考え方やその保持増進の方法は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って、変わってきており、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択が重要となっていることを理解する。また、わが国や世界では、様々な保健活動や対策などが行われていることを理解する。 健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事・運動・休養及び睡眠の調和の取れた生活の実践、及び喫煙・飲酒に関する適切な意思決定や行動選択が必要であることを理解する。 薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、また、医薬品は正しく使用する必要があることを理解する。 (ビデオ学習) 感染症の予防には、適切な対策が必要であることを理解する。
5		・健康の考え方と 成り立ち	4	
6		(2) 健康の保持増 進と疾病の予 防	4	
7		・生活習慣病と日 常の生活行動 ・喫煙・飲酒と健康	3	
8		・医薬品の正しい 使用・薬物乱用と 健康	4	
9			4	
10		・感染症とその予 防	4	
11		(3) 精神の健康 ・欲求と適応機制	4	
12		・心身の相関 ・ストレスへの対 処	3	
1		(4) 交通安全 ・交通事故の現状	3	
2		・交通社会で必要 な資質と責任 ・安全な交通社会 づくり	3	
3		(5) 応急手当 ・応急手当の意義 ・日常的な応急手 当 ・心肺蘇生法	3	

教科名	芸術	科目名	音楽 I	単位数	2 単位	
対象学年	第 1 学年 (全)		履修形態	選択		
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。					
学習内容の概要	<p>A 表現 歌唱・器楽・創作・鑑賞の 4 部門を学習する。器楽では、アルトリコーダー、和楽器（篠笛）を使って合奏することにより生まれる音楽の立体感を楽しむとともに、美しい響きを創るための演奏の仕方を工夫する。 創作については、グループ活動で篠笛のお囃子の即興演奏を創作する。</p> <p>B 鑑賞 我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を感受し、楽曲の歴史的背景の理解とともに様々な音楽を鑑賞する。</p>					
評価の観点・ 評価の方法	<p>① 評価の観点は、音楽への関心・意欲と態度、芸術的な感受と表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の 4 項目とする。</p> <p>② 評価の観点の 4 項目について、生徒の良い点や努力している状況を評価し、出席状況によりまとめる。</p> <p>③ 評価方法は単元ごとの実技テスト・提出物・学習活動の参加状況・出席状況により総括して評価する。</p>					
学習方法	個別の実技指導と生徒全員による合唱、合奏を行い、楽しく音楽に関わりあいながら、音楽について総合的な理解を深めるとともに、表現活動、鑑賞活動を行う。					
教科書・教材等	教科書	MOUSA 音楽 I	副教材	篠笛教本（基礎編）	楽器	アルトリコーダー、篠笛

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	歌唱Ⅰ	・校歌	6	・元気よく歌い、校歌を覚える。
5		・世界の歌曲	8	・発声の基本を習得し、歌うことの楽しさを感じ取る。
6	器楽Ⅰ	・実技試験（歌唱）		・曲想を考えた音楽表現を工夫することができる。
6		・アルトリコーダー導入	8	・「Ave Maria」（カッチーニ作曲）
7	鑑賞Ⅰ	・アルトリコーダーの二重奏		・正しい指使いと、美しい音色を意識しながら演奏できる。
7		・「ピアノの歴史」「ピアノ作品」	6	・相手の音を聞きながら演奏することができる。
8	歌唱Ⅱ	・日本の歌曲	2	・伴奏に合わせて、ハーモニーを感じながら演奏できる。
8	器楽Ⅱ	・篠笛（和楽器）	8	・楽器（ピアノ）の構造と歴史、魅力について理解し、音楽表現を味わうことができる。
9				・歌詞が表す情景を思い浮かべて歌うことができる。
10	創作Ⅰ	・「祭り囃子」	8	・旋律と歌詞の結びつきを感じながら表現できる。
10		・演奏の発表		・篠笛が吹けるようになる。
11				・篠笛の楽譜を知る。
11				・日本音楽の独特の演奏方法を感じ取る。
12	鑑賞Ⅱ	・ミュージカル作品	6	①グループで「祭り囃子」を演奏し、中間に短いフレーズを即興表現する。
12				②全員が演奏できるようになる。
1	楽典	・長音階	6	③グループごとに発表し鑑賞し合う。 （お互いの演奏を批評できるようになる）
1				④篠笛の楽譜に記録する。
2	歌唱Ⅲ	・合唱曲	8	・全体の活動を通して、曲の構成方法・形式を理解することができる。
2				・身近な作品を通して、ミュージカルに興味を持つ。
3	まとめ	1年間のまとめ	6	・劇中音楽の多彩な感情表現を感じ取る。
3				・長音階について理解し、楽譜することができる。
3				・美しい響きを味わい、楽しみながら意欲的に表現できる。
3				・卒業式の歌「群青」

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年（普通科・生活教養科）		履修形態	選 択	
科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、豊かな情操を養う。				
学習内容の概要	<p>A 表現</p> <p>(1) デザイン、彫刻、絵画、工芸といった表現を含む複合的な課題を通して、主題の生成から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、美術の総合的理解と、創造的な表現を培う。</p> <p>(2) 美術の授業を通して、基礎的な技量を身に付け、表現形式の選択及び作品を具現化するための作業計画など、構想する力を育み、意図に応じた創造的で多様な表現方法を工夫する力を養う。</p> <p>B 鑑賞</p> <p>(1) 日本の絵画、海外の絵画を鑑賞し様々な表現方法やよさがあることを理解するとともに、自由な発想で独自の観点から絵画の楽しさを学ぶ。</p> <p>(2) 美術史にそって、現代美術まで国内外の作品を鑑賞し、美術史とその背景にある歴史や作者の意図について理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点</p> <p>① 美術への関心・意欲・態度 美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。</p> <p>② 発想や構想の能力 美術の創造活動の喜びを味わい、感性や創造力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。</p> <p>③ 創造的な技能 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか。</p> <p>④ 鑑賞の能力 美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっているか。</p>				
学習方法	個別の実技指導を中心に、生徒全員による作品の鑑賞を行い、楽しく美術にかかわりあいながら、美術について総合的な理解を深めるとともに、表現活動、鑑賞活動を行う。				
教科書・教材等	教科書 「美術 I」 (光村図書)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	鉛筆デッサン (基礎)	美術においてすべての基本となる、最も重要な鉛筆デッサンについて学ぶ。	6	表現について鉛筆デッサンの特性（立体感や遠近感・質感・空間などの表現は色を用いない鉛筆デッサンにおいて鉛筆の濃淡で作る明度の差や鉛筆の持ち方によるものということ）を理解する。
5		グラデーションや質感・立体感を鉛筆の濃で表現する。	8	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆デッサンで大切な点を学び、要点をおさえているか。 鉛筆の性質を理解し、使い分けた表現ができているか。
6	鉛筆デッサン (応用)	基礎をおさえ、実際に身近なものをモチーフに鉛筆デッサンを描く。	8	形を冷静に捉え、画面の構成や余白を全体的にみることができているか。 <ul style="list-style-type: none"> 表現の応用ができているか。 形をよく観察し捉えているか。
7	静物画	これまでに学んだデッサンに基礎や色の特性、表現技法、様々な絵画の表現などを踏まえた制作をする。	6	表現方法・画材の選択及び作品を制作する作業計画、画面を構成する力を育み、自らの意図に応じた創造的で多様な表現方法を工夫する。
8		加えて、画面の構成について学び、自らの作品を鑑賞し、作品制作の意識を高める。	2	表現方法や画材の特性を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 自らの意図に応じた表現・工夫ができているか。 意図をもって表現技法・画材を選択できているか。
9		水彩絵の具やアクリル絵の具の特性を知り、作品に適した画材・技法を選び制作する。	8	<ul style="list-style-type: none"> 自らの作品を客観的に鑑賞し、画面の構成を意識的なものにできているか。 作品の目標を自ら定め、完成までの過程を計画し、取り組むことができているか。
10			8	
11	彫刻	立体木彫りで制作する。主題を設定し、主題から形を起こし、デッサンを繰り返し行うことで形を明瞭にしていく。	8	主題を掘り下げて考え、感情など形のないものを具現化するために構想を練る。 可視できないものの形を想像することによって補い、彫刻的なものの見方を養う。
12		彫刻刀、切り出しを使い木を彫りだしていく。	6	素材の特性を理解し、自ら求める形に到達するための道具選びや、制作計画をする <ul style="list-style-type: none"> 主題を明確に設定できているか。 多方向からのデッサンに矛盾はないか。 彫刻刀や切り出しを正しく扱えているか。 作品を最後まで計画的に彫り上げているか。
1	鑑賞	国内外の美術作品を、美術史に沿って現代作品まで、視聴覚資料を見ながら学ぶ。	6	美術史とその背景にある歴史や、作者の意図について理解する。
2			8	歴史や時代の思想が美術史に影響を与えていることを理解する。
3			6	

教科名	芸術	科目名	書道 I	単位数	2単位
対象学年	第1学年（普通科・生活教養科）		履修形態	選 択	
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	<p>A 表現</p> <p>(1) 漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和した線質の表し方や、文字の大きさと全体の構成を工夫する。</p> <p>(2) 漢字の書 古典に基づく基礎的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。字形の構成を理解し、全体の構成を工夫する。</p> <p>(3) 仮名の書 古典に基づく基礎的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。単体、連綿の技法を習得し、全体の構成を工夫する。</p> <p>B 鑑賞 日常生活における書への関心を高め、その効用を理解する。日本及び中国等の文字と書の伝統と文化を理解し、書の美しさと表現効果を味わう。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>A 評価の観点</p> <p>(1) 書への関心・意欲・態度 書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に創造的活動に取り組もうとする。</p> <p>(2) 書表現の構想と工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら表現を工夫している。</p> <p>(3) 創造的な書表現の技能 基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。</p> <p>(4) 鑑賞の能力 書の伝統と文化について幅広く理解し、書の美しさを味わっている。</p> <p>B 評価方法 (1) 「学習活動への参加状況と態度」「作品の制作」「学習記録・自己評価記録」で評価する。</p>				
学習方法	<p>(1) 書の古典を生徒の書写能力に沿って選択し臨書学習をする。</p> <p>(2) 書の伝統と文化に関心を持つため、文字文化に関する学習をする。</p> <p>(3) 日常生活の書の効用を理解したり、鑑賞による書の美しさを理解するため、書道展を鑑賞したりする。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「書 I」(光村図書)</p> <p>教材 各種拓本・有名書道家や生徒の書作品</p> <p>書道用具 筆・半紙・墨は共同購入して指導する。</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	はじめに	・中学で学習した書写の基本的な事項を確認する。	6	・中学で学習した書写について振り返る。
5	①書道の世界にふれよう	・基本的な姿勢や執筆や用具用材を学ぶ。		・書写と書道の共通性と書道の性格を理解する。
	②表現の違いを知ろう	・古典の臨書の大切さを学ぶ。		・地場産業と書道との関わりを理解し、用具と用材に関心を持つ。
6	①楷書を学ぼう	・初唐の三大家と唐の四	8	・姿勢と執筆法を理解する。
7	「孔子廟堂碑」	大家の書道史上の要点を学ぶ。		・紙、墨、用筆による表現の違いを理解する。
	「九成宮醴泉銘」	・臨書学習により、四大家の特徴のある基本的な点画の用筆と運筆を学ぶ。	8	・書道の主な学習が、古典を学ぶことであり、臨書の意味を理解する。
	「雁塔聖教序」			・歴史と文字との関わりを理解する。
	「顔氏家廟碑」			・初唐の三大家と唐の四大家を理解する。
8				・「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」の各古典の要点と表現の特徴を理解し、臨書作品を制作する。
9	②行書を学ぼう	・王羲之と「蘭亭序」について書道史上の要点を学ぶ。	8	・行書体の特徴を確認する。
	「蘭亭序」			・王羲之の書道史上の要点を理解する。
				・「蘭亭序」の逸話等を通して、書道史上の要点を理解し、文字文化を継承する人類の英知を理解する。
10	「風信帖」	・空海と「風信帖」について書道史上の要点を学ぶ。	8	・「蘭亭序」の臨書作品を制作する。
				・空海の人と歴史上の要点を理解する。
				・「風信帖」の特徴を理解し、臨書作品を制作する。
11	③暮らしの中の書	・硬筆の書き方を学ぶ。	8	・漢字の筆順と部首を理解する。
		・硬筆書写検定実施		・縦書きと横書きについて理解する。
12				・楷書と行書の文章の書き方の違いを理解する。
	④仮名の書に親しもう	・仮名の成立と変遷を学ぶ。	6	・仮名の成立の歴史を理解する。
		・仮名の美しさと、正しい字形を学ぶ。	6	・仮名と片仮名の字母を理解する。
1				・単体と連綿の書き方を理解する。
2	⑤漢字仮名交じりの書に親しもう	・漢字仮名交じりの書の表現を学ぶ。	8	・漢字と仮名の調和を理解する。
3		・作品鑑賞		・線質による表現の違いを理解する。
				・色紙に好きな言葉を用意し、作品制作する。
				・一年間学んだ事を整理する。

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語I	単位数	3 単位								
対象学年	第1学年(特別進学コースI・II類)		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 文章を正しく理解し、概要・要点や書き手の意向なども読み取る能力の育成に重点を置く。 2 各課ごとの言語材料を様々な場面で運用していくことのできる能力の育成に重点を置く。 3 音読練習に重点を置く。 4 語彙の増強、文法知識の蓄積など基礎的な部分を重視するとともに、豊富な演習問題によって、大学受験に対応しうる力を養う。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・既習の言語材料を使つての表現 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項などを確認する。中学校の既習事項の全般的な見直しをする。 2 中学校既出の単語・熟語を含め、4000単語を覚える。 3 副教材「DUAL SCOPE 総合英語」や副読本を併用し、理解度を深める。 4 音読を更に充実させ、読解力を強化する。 5 分からない英語の意味や用法は辞書を使って確認する。 6 STEP英語検定に積極的に挑戦する。能力に応じて準2級、2級取得を目標にする。 7 ノートをまとめたり、課題をすることにより、理解度を深める。 8 CDを使って各自が聞き取りの練習をする。 												
教科書・教材等	MY WAY English Communication I New Edition (三省堂) MY WAY English Communication I New Edition ワークブック (三省堂) DUAL SCOPE 総合英語 (数研出版株式会社) 夢をかなえる英単語 新ユメタン (アルク) 辞書(推奨：スーパーアンカー英和辞書)												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	5文型		9	
5	LESSON 1	A Story about Names (名前をめぐる世界の状況)	12	・動詞と名詞
6	LESSON 2	Message from Yanase Takashi (やなせたかしさんが伝えたメッセージ)	12	・比較級、最上級、形容詞と副詞
7	LESSON 3	Purposes of the Olympics (オリンピックの歴史とその目的)	12	・助動詞、受け身、助動詞のついた受け身、主語と述語動詞
8	LESSON 4	Hospital Art (病院で見られるアート)	12	・現在進行形、現在完了形、過去完了形
9				
10	LESSON 5	Writing Systems in the World (世界のさまざまな文字)	12	・動名詞、to不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法、It is ~ to do
11	LESSON 6	Washoku (日本の伝統的な食文化)	12	・関係代名詞(主格・目的格)、関係代名詞 what、SVOO (how to ~)
12	LESSON 7	From Landmines to Herbs (ハーブが作る未来)	9	・現在分詞の形容詞的用法、過去分詞の形容詞的用法、分詞構文、代名詞
1	LESSON 8	A Mysterious Object from the Past (古代ギリシャの沈没船から見つかった謎の物体)	9	・関係副詞 where、関係副詞 when、関係副詞 why、It is ... that ~、時を示す語句
2	LESSON 9	Sesame Street (世界中の子どもたちに愛されるテレビ番組)	12	・条件を表す if 節、仮定法過去
3	LESSON 10	Heritage of Beatrix Potter (益川敏英博士の「のりしろ」生活)	9	・SVO+ to不定詞、SVOC (C=動詞の原形)、SVOC (C=現在分詞)、SVOO (if/whether 節)

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語 I	単位数	3単位
対象学年	第1学年（進学・総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。				
評価の観点・ 評価の方法	関心・意欲・態度 10点 表現力 10点 知識・理解 10点 関心・意欲・態度の判断基準 ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 表現力の判断基準 ・音読 ・既習の言語材料を使つての表現 知識・理解の判断基準 ・小テスト ・各種テスト				
学習方法	1 各課に出てくる文構造や文法事項を定着させる。 2 英文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3 音声教材を適切に取り入れ、ネイティブの発音、イントネーション、スピード等に慣れ、リスニング力を高める。家庭学習でもCD等を使い、リスニングの練習をする。 4 音読練習をすることにより、正確な発音、基本的なイントネーションや区切り等を意識し、正しく音読できるようにする。また、音読を通して、理解力、読解力、リスニング力、相手に伝える力を高める。 5 既習事項を使い、書いたり話したりすることによって自分自身のことを相手に伝える能力を養う。 6 単語・熟語の小テストを行ない、語彙力を強化する。 7 補助教材を活用し、予習・復習をする。 8 課題やノートを定期的に確認する。 9 分からない英語の意味や用法は辞書を使って確認する。 10 英検等の検定試験に積極的に挑戦する。				
教科書・教材等	All Aboard Communication English I All Aboard Communication English I Workbook 標準編 コーパス 1800				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Warm-Up 1~3 Pre-Lesson 1,2	Lesson に入る前のウォームアップ	9	英語の音、アルファベット、表現に慣れる Be 動詞と一般動詞／否定文と疑問文
5	Lesson1	Hello, Everyone! (海外の仲間から)	12	動詞の過去形 自己紹介の表現
6	Lesson2	A Letter to Australia (両親への手紙)	12	現在進行形／過去進行形 報告の表現
7	Lesson3	Kawaii Culture (カワイイカルチャー)	12	助動詞 感想を述べる
8	Lesson4	A Symphony of Soup and Noodles (すばらしきラーメンの世界)	12	不定詞 誘う表現
9	Lesson5	Lifelong Friends (外国語学習のすすめ)	12	動名詞 相づちを打つ
10	Lesson6	A Funny Picture from the Edo Period (奇想天外な浮世絵師)	12	受け身 描写の表現
11	Lesson7	Living on Ice (コウテイペンギンの世界)	12	現在完了形 提案の表現
12	Lesson8	A Garden in Hokkaido (北国のガーデン)	9	It の用法 理由を述べる
1	Lesson9	Pigs from across the Sea (海の向こうからの贈り物)	9	関係代名詞／分詞構文 感謝の表現
2	Lesson10	Memories on Trees (森の国、フィンランド)	12	比較表現 説明する
3	Lesson11	A Window on the Universe (ハワイのすばる望遠鏡)	9	仮定法過去／関係副詞 願望の表現

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語I	単位数	3 単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎を重視し、中学校での学習事項を整理、復習をする。 2 単語の発音、熟語・慣用表現・重要構文を含む英文の音読練習に重点を置き、さまざまな英語表現を身につける。 3 身近な話題から、異文化理解、環境問題など、様々な内容の英文に触れ、それぞれの内容について考える力を養う。 				
評価の観点・ 評価の方法	<p>定期考査 60点 関心・意欲・態度 10点 表現力 20点 知識・理解 10点</p> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読・スピーキングテスト・インタビューテスト ・既習の言語材料を使つての表現 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項、重要構文を整理・復習し、反復学習をする。 2 単語・熟語を暗記し、語彙力の強化を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、英語表現力を高める。 4 学習事項をノートにまとめ、学習の定着を図る。 5 練習問題・補充プリント・定着ドリルに取り組み、学習のポイントの確認と理解を深める。 6 小テスト・各種テストの見直しをしっかりと行い、次の学習につなげる。 7 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる機会を大切にする。 				
教科書・教材等	Comet English Communication I（数研出版） Comet English Communication I ベーシックノート（数研出版） Comet 基本文法 定着ドリル ①（数研出版） 夢をかなえる英単語 ユメタン Jr. 身の回りのことを話そう編（アルク）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Get Ready ① Get Ready ② Get Ready ③ Get Ready ④	自己紹介 友達の紹介 好きなアニメやキャラクターの紹介 好きなものについて質問	9	・be 動詞 ・一般動詞 ・否定文 ・疑問文
5	Lesson 1	Why Do You Study English?	1 2	・be 動詞／一般動詞（現在形・過去形・否定文）
6	Lesson 2	Washoku: Our Traditional Food	1 2	・助動詞（can, may, must）
7	Lesson 3	What Should I Do?	9	・進行形
8	Challenge 1	文化祭に向けて英語メッセージの入ったクラスTシャツを作成	3	・英語フレーズの表現や使い方
9	Lesson 4	My School, Your School	1 2	・不定詞
10	Lesson 5	Peace, the Polar Bear	1 2	・助動詞（動詞+ing）
11	Lesson 6	Flying Wheelchairs	1 2	・現在完了形
12	Lesson 7	Moving As One	9	・受け身
1	Review Lesson 1~4	一年のまとめ	9	・be 動詞、一般動詞、助動詞
2	Review Lesson 5~7	一年のまとめ	1 2	・進行形、不定詞、助動詞
3	ユメタン Jr.	単語センテンス学習	9	・「土台」を作る基礎の基礎 （代名詞・接続詞・疑問代名詞・疑問副詞・前置詞・助動詞・不規則変化動詞）

教科名	英語	科目名	英語表現 I	単位数	2 単位								
対象学年	第 1 学年 (特別進学コース I 類・II 類)		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。												
学習内容の概要	<p>学校生活や社会生活における日常的な場面を設定して、次のような活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な文法事項などを確認する。 2 演習をとおして、各課ごとの言語材料を運用する能力を育む。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">定期考査</td> <td style="text-align: right;">70 点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td style="text-align: right;">10 点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td style="text-align: right;">10 点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td style="text-align: right;">10 点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・既習の言語材料を使った表現 <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・各種テスト 					定期考査	70 点	関心・意欲・態度	10 点	表現力	10 点	知識・理解	10 点
定期考査	70 点												
関心・意欲・態度	10 点												
表現力	10 点												
知識・理解	10 点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 中学校既出の単語・熟語を含め、3000～4500 単語を覚える。 2 副教材「デュアルスコープ総合英語」を併用し、理解度を深める。 3 音読を充実させ、理解力を強化する。 4 英語検定、準 2 級・2 級取得を目標にする。 5 辞書指導を徹底する。 6 ノート点検により、理解度を確認する。 												
教科書・教材等	<p>MY WAY English Expression (三省堂) MY WAY English Expression WORKBOOK (三省堂) チャート式 デュアルスコープ総合英語 (数研出版株式会社) コーパス 4500 (東京書籍)</p>												

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	英語の決まりを復習し、理解しよう Lesson 1 Lesson 2	私はときどきランニングをします D. ラドクリフさんは語る	6	現在形/現在完了形 過去形/過去進行形
5	Lesson 3 Lesson 4	夏休みの予定、明日の予定 ベルリンの自転車タクシー	8	未来表現 will/be going to go 現在完了形（完了・結果/継続・現在完了進行形）
6	Lesson 5 Lesson 6	映画は好きですか 芸をする魚たちー水族館へ行く	8	現在完了形（経験）/過去完了形 助動詞1（可能・許可/義務）
7	Lesson 7 Lesson 8	アライグマは害獣? 興福寺の阿修羅像	8	助動詞2（推量） 受動態1（受動態の基本/by 以外の前置詞を伴う表現）
8	Lesson 9 Lesson10	交換留学生とホームステイ 自然と科学とのこと	8	受動態2（助動詞+受動態）/SVOO、SVOC の受動態 不定詞1（名詞的用法）
9	Lesson11 Lesson12	小旅行に出かけてみませんか? 私の好きな音楽	8	不定詞2（副詞的用法/形容詞的用法） 動名詞
10	Lesson13 Lesson14	旭山動物園の動物たち エネルギーは大切に	8	分詞1（形容詞の働きをする現在分詞・過去分詞） 分詞2（補語として使われる分詞/分詞構文）
11	Lesson15 Lesson16	ファッション、ショッピング テレビ番組、ラジオ番組	8	知覚動詞/使役動詞 比較1（比較級/最上級）
12	Lesson17 Lesson18	日本の名所、新名所 友人や学校生活のこと	6	比較2（as...as~を用いた比較/最上級の意味を表す表現） 関係代名詞1（主格/目的格と省略）
1	Lesson19 Lesson20	私の好きな本、作家 地球のことや宇宙のこと	6	関係代名詞2（whose, what/that） 関係副詞（where, when/why, how）
2	Lesson21 Lesson22	食べ物、食事、料理を楽しむ 私のあこがれの人	8	仮定法過去/仮定法過去完了 その他の仮定表現
3	Lesson23 Lesson24 Lesson25	ピアニスト辻井伸行さん なりたい職業は何ですか 学んでみたい外国語	6	部分否定/準否定語 間接話法と時制の一致 接続詞など

教科名	英語	科目名	英語表現 I	単位数	2単位								
対象学年	第1学年（進学・総合コース）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな場面のダイアログやモノログを聞き、英語表現を学ぶ。 2 レッスンで学習する文構造・文法を学びながら、語彙を増やす。 3 単語の発音、英文の音読練習に重点を置く。 4 レッスンで学習したことを自分で書いたり話したりする内容を主体的に考える力を養う。 5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。 												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>60点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠状況 ・学習の取り組み ・提出物 <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・既習の言語材料を使ってのコミュニケーションテスト <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課ごとの確認テスト ・小テスト 					定期考査	60点	関心・意欲・態度	10点	表現力	20点	知識・理解	10点
定期考査	60点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	20点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。 2 ワークシート・補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。 3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。 4 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。 5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。 												
教科書・教材等	Select English Expression I New Edition（三省堂） 準拠 ワークブック 補助プリント 夢をかなえる英単語 新コメタン Jr.（アルク）												

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson1	自己紹介	6	・英語学習の方法を学ぶ（予習の仕方等） ・自己紹介する
5	Lesson2	宇宙で食事	8	・現在形・be 動詞・一般動詞 ・過去形・be 動詞・一般動詞
	Lesson3	世界へ羽ばたけ！		・進行形
6	Lesson4	エーゲ海の島へ	8	・未来表現
	Speaking Station1			
7	Lesson5	アイドル	8	・現在完了形①
	Lesson6	祭りだ！祭りだ！		・現在完了形②
8	Lesson7	未来のエネルギー	8	・助動詞①
	Lesson8	世界平和のために		・助動詞②
9	Speaking Station2		8	
	Lesson9	沖縄美ら海水族館		・不定詞①
10	Lesson10	未来を切り拓く	8	・不定詞②
	Lesson11	はやぶさ2の挑戦		・動名詞
11	Lesson12	不思議な絵	6	・受動態
	Speaking Station3			
12	Lesson13	ヒエログラフ	6	・分詞
	Lesson14	私たちの街にガオー		・関係代名詞①
1	Lesson15	書道甲子園	8	・関係代名詞②
	Lesson16	どれが一番？		・比較
2	Speaking Station4		6	
	Lesson17	限りある水		・知覚動詞
3	Lesson18	ピサの斜塔	6	・仮定法過去
	Speaking Station5			

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年(進学・総合コース)		履修形態	必修	
科目の目標	ライフステージに応じて必要とされる、基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 生活をつくる 家族の食生活・衣生活・住生活に必要な知識と技術を習得し、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。</p> <p>(2) 人とかかわって生きる 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解し、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。</p> <p>(3) 消費者として自立する。 家庭経済や消費生活に関する基本的な知識を習得するとともに、現代の消費生活の課題について認識し、消費者として責任を持って行動できるようにする。</p> <p>・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動 「ホームプロジェクトと家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解し、学習した内容を発展させ、各自が生活の中から課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、(関心・意欲・態度)(思考・判断)(技能・表現)(知識・理解)とする。 ・具体的な評価は、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、観察の記録や実習の記録、自己評価、実習準備や服装、清潔、安全への配慮等と定期考査の素点で総合的に評価する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージの理解とともに、実習を通して実践的な態度を養う。 ・現在の生活を見つめ、よりよくするために具体的な事例や体験的な学習を通して、男女が協力して家庭や地域の生活を創造できるようになる。 				
教科書・教材等	教科書 「新版 家庭基礎 ともに生きる・持続可能な未来をつくる」(第一学習社)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	5章 食べる 1節 人の一生と食事	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちと食事 ・食べることと健康 ・食生活の変化 ・食生活をとりまく環境の変化 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を管理するために必要な衣・食・住の基本的な知識と技術を身につける。 ・5大栄養素の種類と特徴を理解する。 ・食品添加物等を理解し、衛生面・安全面に気を付けて食生活を送ることができる。
5	2節 栄養と食品	<ul style="list-style-type: none"> ・人体と栄養 ・栄養素の種類と性質 ・加工食品・健康増進のための食品 ・調理実習 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食品の選択ができ、計画的に調理から後片付けまでできるようにする。 ・調理実習に必要な用具を忘れずに持ってくること。また、実習のねらいを理解し、グループで協力して行うこと。
6	3節 食生活の安全のために	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の安全と栄養 ・食品の選択と保存 	8	
7	2章 次世代をはぐくむ	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代をはぐくむ ・命のはじまり 	8	
8	1節 子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体の発育・発達 ・子どもの心の発達 ・子どもと遊び 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達を知り、食生活・衣生活・健康管理・安全性について理解を深める。 ・子どもの遊びの意義を理解する。
9	2節 親の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子の関係 ・乳幼児期の生活 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・親になることを考え、子育てのためにどのような環境が整えられるかを考えさせる。
10	3節 子育て支援と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援と地域社会のかかわり ・子どもの権利と福祉 	8	
11	7章 装う 1節 人の一生と被服	<ul style="list-style-type: none"> ・人と被服 ・被服の選び方 ・被服材料の種類と特徴 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の起源、衣服の機能を理解する。 ・繊維の種類と特徴、用途を理解する。
12	2節 被服素材と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料用繊維 ・被服の手入れと保管 ・洗濯のしくみ ・被服実習 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱い表示の記号と種類、洗濯の方法と特徴を知り、家庭での適切な手入れ、洗濯ができるようにする。 ・並み縫い、まつり縫い、半返し縫い、ボタン付けなどの基礎縫いができるようになる。
1	1章 これからの生き方と家族 1節 青年期を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい人勢とは ・青年期の課題 ・ワークライフバランス ・男女の平等と相互の協力 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと発達課題を理解し、高校時代に何ができるか計画を立て、自分のライフサイクルを考える。
2	2節 家族・家庭と社会のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とは？家庭とは？ ・家族・家庭の働き 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・家族に関する憲法、民法を理解する。
3		<ul style="list-style-type: none"> ・これからの生活をつくる 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する就業形態について理解し、家庭の機能を確認するとともに、自分自身の将来について考える。

教科名	家庭	科目名	家庭総合（被服・福祉）	単位数	2単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	衣生活・住生活・子どもや高齢者とのかかわりと福祉に関する知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。被服検定4級の取得を目指す。				
学習内容の概要	<p>第7章 装う</p> <p>1節 人の一生と被服 2節 被服の政策 3節 被服材料と管理 文部科学省後援 家庭科技術検定 被服製作4級（基礎縫い）</p> <p>第2章 次世代をはぐくむ</p> <p>1節 子どもの発達 2節 親の役割 3節 子育て支援と福祉</p> <p>ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、（関心・意欲・態度）（技能・表現）（知識・理解）とする。具体的には、以下のとおりである。 ＊出欠状況（実技の出席4／5以上を原則とする） ＊授業態度・実習の様子（私語、布忘れ、何もしない等授業に不参加の場合、実習点はゼロとする） ＊課題提出・裁縫道具の有無、学習プリントの提出状況、ノート提出、定期考査（手縫いの実技テスト含）、検定内容も考慮し、総合的に評価する。 ・作品づくりを中心に授業を行うので、計画に従って作業を進めていき、作品を仕上げることに重点を置く。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容理解とともに、実習等を通して実践的な態度を身につける。 ・日常生活に密接に関係しているため、日々の生活の中から課題を見つけたり、解決法を考えたりする。 ・手縫い・ミシン縫いの習得 				
教科書・教材等	教科書 「家庭総合 ともに生きる・持続可能な未来をつくる」（第一学習社）				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等			
4	第7章 装う	<ul style="list-style-type: none"> ・人と衣服のかかわり ・衣服の機能 体温保持・皮膚の保護 社会秩序・自己表現 ・衣服は何からできているのか ・衣服の購入・手入れ ・衣服製作の基本 文部科学省後援 全国高等学校家庭科 技術検定被服製作 4級 基礎縫い 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服がなぜ着用されるようになったのか、風土や衣服文化とともに衣服の機能を理解する。 ・織物・編み物の組織について実際に布に触れながら理解を深めていく。 ・繊維の種類と特徴・用途を理解する。 ・着心地や手入れや保管にかかわる性能を理解する。 ・採寸箇所と採寸方法を知り、自分の寸法を測る。 ・手縫い・ミシン縫いの基礎的な製作に取り組み、検定を受検する。 ・ミシン縫い・手縫いのそれぞれの項目を習得する。 【直線ミシン・角縫い・曲線ミシン・なみ縫い・半返し縫い・まつり縫い・ボタン付け・仕上げ】 ・採点後わき部分を縫い、ひもを通して完成させる。 			
5			8				
6			8				
7			8				
8			8				
9			8				
10			8				
11			8				
12			第2章 次世代を育む		<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生 ・人の発達と保育 ・保育実習 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児の成長と健康管理について知る。 ・乳幼児の心身の発育・発達と生理的特徴、心の発達について理解する。また、親の役割や保育の重要性や地域社会の果たす役割について認識するとともに、子どもを産み育てることの意義や子どもとかわるることの重要性について考える。
1						6	
2	8						
3	夏休み ホームプロジェクトと学校家庭 クラブ活動	ホームプロジェクト	6	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にし、実施計画を作成。 生活の中から課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。 ・主体的活動を重視し、学校・地域生活の向上に努める。 			

教科名	家庭	科目名	家庭総合（食物）	単位数	2単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	食生活、高齢者の生活と福祉などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>（1）第6章 食べる</p> <p>①人の一生と食事</p> <p>②栄養と食品</p> <p>③食生活の安全のために</p> <p>④食生活をデザインする</p> <p>・家庭科技術検定 食物調理検定4級・3級：調理の基礎、基本的な調理法</p> <p>⑤これからの食生活</p> <p>（2）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p> <p>ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解し、学習内容の発展として、各自が生活の中から課題をみいだし、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。</p> <p>（3）第8章</p> <p>①人の一生と住まい</p> <p>②住生活の計画と選択</p> <p>③これからの住生活</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、(関心・意欲・態度)(思考・判断)(技能・表現)(知識・理解)とする。 ・具体的には出欠状況、授業態度、定期考査、ホームプロジェクトへの取り組み状況、実習に取り組む姿勢、態度、観察の記録、自己評価で総合的に評価する。 ・実習時には必ずエプロンを着用、爪は短く切ること（実習点として加算）とする。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化や栄養、食品、楽しく調理し食べること、そして食生活と環境とのかかわりなどについて様々な面から総合的に学習する。 ・実習・検定を通して、衛生・準備・基本的調理操作・片付けまで、実践に生かせる能力・技術を身につける。 ・高齢者の心身の変化、社会のしくみなど高齢者に対する理解を深める。 				
教科書・教材等	「新版 家庭総合 とともに生きる・持続可能な未来をつくる」第一学習社				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等		
4	6章 食べる	・私たちと食事 食生活の変化 食生活の文化	6	<ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史の中で培われた食生活や世界各地の食生活の文化に関心をもつ。 ・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。 		
5			8			
6		・食物技術検定4級 練習・試験	8		・検定の実技、筆記問題に取り組む。	
7		・栄養素の種類と性質	8		・身近な例を具体的に取り上げて考える。	
8		・加工食品・健康増進のための食品	8		・家族の健康の保持増進を図るためには、栄養的にバランスのとれた食事が重要であることを認識する。	
9		・食生活の安全と衛生			・食料の自給、食生活と環境など、現在の問題点や今後の課題について考える。	
10		・食品の選択と保存				
11		・食物検定3級 練習・試験	8		・衛生的な調理実習を心がけ、身じたく、用具・食材の準備、調理、盛りつけ、試食、かたづけ、評価、反省をする。	
12		8章 住生活をつくる	・人の一生と住まい 気候・風土と住まい 平面図の活用 住まいのインテリア		6	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの機能、風土と生活と住まいのかかわりを理解する。 ・平面表示記号を理解し、平面図から生活を読み取ることができる。 ・健康に配慮した快適な室内環境を考えることができる。
1					6	
2	・住生活の計画と選択 快適で健康な住まい		8			
3	・住まいの安心・安全 ・これからの住生活		6			
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	ホームプロジェクト (夏季休業課題)		・家庭科で学習した内容を発展させ、計画を立てて実践する。		
	調理実習		通年 20			

教科名	情報	科目名	社会と情報	単位数	2単位
対象学年	第1学年(全)		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集・処理・発信などの情報活用能力を身につける。 ・情報の収集・発信における問題点を理解し、それを踏まえて適切な情報発信ができるようになる。 ・情報を主体的に活用し、情報社会に主体的に参加する態度を身につける。 ・コンピュータの特性や情報通信ネットワークのしくみなどの基礎知識を理解する。 				
学習内容の概要	<p>(1) 情報の活用と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アナログとデジタルの特徴を学習し、それぞれの長所や短所を理解する。 ② 文字の表現や画像を組み合わせ、効果的な情報伝達を行う方法を学習する。 ③ 表計算ソフトウェア、ワープロソフト、ペイントツールの基本的な機能を使い、文字と画像を組み合わせた文書を作成できるようになる。 <p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーション手段や通信手段の発達過程について理解する。 ② コンピュータネットワークのしくみを理解する。 ③ 情報発信において、他人への配慮の必要性を理解する。 ④ プレゼンテーションの構成を論理的に組み立て、プレゼンテーションソフトウェアで発表用資料を作成する。 <p>(3) 情報社会の課題と情報モラル</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 身近な社会が、さまざまな情報技術に支えられていることを理解する。 ② 情報セキュリティの必要性について理解する。 ③ サイバー犯罪やネットワークコミュニケーションにおけるトラブルがどのようなものなのか、具体例を通じて学習し、情報モラルの必要性を理解する。 <p>(4) 望ましい情報社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 情報システムによってさまざまな情報が管理されていることを理解する。 ② 情報機器を使いやすくするための工夫について学習し、ユニバーサルデザインの考え方を理解する。 ③ 問題解決に必要な手段を考えることができるようになる。 <p>(5) 検定試験への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月 全商ビジネス実務検定試験4級合格を目指します。 11月 全商ビジネス実務検定試験3級合格を目指します。 1月 全商情報処理検定試験3級合格を目指します。 随時実施 P検協会P検タイピング試験合格を目指します。 				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 評価は、①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解の4項目とする。</p> <p>(2) 他には、定期考査・出欠状況・提出物・態度・実技テストなどで総合的に評価する。</p>				
学習方法	情報処理教室でパーソナルコンピュータを使い、実習を中心に学習します。				
教科書・教材等	<p>高等学校 社会と情報 第一学習社 ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3級 実教出版 情報処理検定模擬試験問題集 3級 実教出版</p>				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	情報の活用と表現	・情報のデジタル化	6	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ内部では、さまざまな情報がデジタル化されて扱われていることを学習する。 ・情報を表現するための文字や画像の扱い方を理解する。特にグラフについては、その基本的な性質を理解し、そのために必要な統計の基礎を学習する。 ・10進法で表された数と2進法で表された数とを、相互に変換する方法を学習する。 ・情報通信手段や通信手段の発達によって、伝達できる情報の量が大きくなったことを理解する。 ・情報を収集するときには、信憑性に留意することが重要であることを理解する。 ・情報を発信するときには、他人の権利への配慮と思いやりが必要なことを理解する。 ・プレゼンテーションソフトウェアを使って、発表用資料を作成する。また、プレゼンテーションの相互評価を行い、評価に基づいて資料を修正する。 ・情報化が社会に与えている光と影の面について理解する。 ・電子商取引の利点と問題点、テクノストレスやデジタルデバインドなどが説明できる。 ・情報の安全性を守るために、認証やアクセス制御などの方法があることを知る。 ・暗号を使う効果や性質を体験的に理解する。 ・著作権について学習し、他人の著作物を利用するには許諾を得る必要があることを理解する。 ・複数の情報システムが連携し、さまざまな情報を管理していることを知る。 ・情報機器を使いやすくするための工夫について理解する。 ・問題解決に必要な手段を考える。 ・職業研究を通じて、情報収集と発表の実践を行う。 	
5		・情報の表現と伝達	8		
6		・コンピュータがはたらくしくみ	8		
7		情報通信ネットワークとコミュニケーション	8		
8		・コミュニケーション手段の発達	8		
9		・情報通信ネットワークのしくみ	4		
10		・ネットワーク上のコミュニケーション	4		
11		・学校を紹介する	8		
12		・情報の蓄積・管理とデータベース	8		
1		情報社会の課題と情報モラル	・情報化が社会にもたらす利点と問題点		8
2		・情報セキュリティの確保	6		
3		・情報社会における法と個人の責任	6		
4	望ましい情報社会の構築	・社会における情報システム	8		
5	・情報システムと人間	6			
6	・情報社会における問題の解決	6			
7	・職業研究をしよう	6			

教科名	家庭	科目名	生活産業基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や、関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し、生活に活用する意欲と態度を身につける。 ・生活産業に対する消費者ニーズを的確に把握して、必要な商品を企画する能力やそれらを提供していく上で必要なマネジメント能力を身につける。 				
学習内容の概要	<p>第1章 「生活産業基礎」を学ぶ</p> <p>1節 私たちの生活と「生活産業」</p> <p>2節 「生活産業」のスペシャリストになるために</p> <p>第2章 生活に対応した商品・サービスの提供</p> <p>1節 消費者ニーズの把握</p> <p>2節 商品・サービスの企画・開発及び販売・提供</p> <p>3節 関連法規</p> <p>第3章 食生活関連分野の産業と職業</p> <p>1節 食生活の変化と生活産業基礎のかかわり</p> <p>2節 食生活関連産業の職業と資格</p> <p>第4章 衣生活関連分野の産業と職業</p> <p>1節 衣生活の変化と生活産業とのかかわり</p> <p>2節 衣生活関連産業の職業と資格</p> <p>第5章 住生活関連分野の産業と職業</p> <p>1節 住生活の変化と生活産業とのかかわり</p> <p>2節 住生活関連産業の職業と資格</p> <p>第6章 ヒューマンサービス関連分野の産業と職業</p> <p>1節 社会の変化とヒューマンサービス</p> <p>2節 ヒューマンサービス関連産業の職業と資格</p> <p>第7章 職業生活と自己実現</p> <p>1節 職業生活と生きがい</p> <p>2節 将来の生活と学業</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (思考・判断) (技能・表現) (知識・理解) とする。 ・具体的な評価は、出欠状況、授業態度、課題・作品・学習プリント・ノートの提出状況、学校家庭クラブ活動への取り組み状況、観察の記録や、自己評価、定期考査の素点で総合的に評価する。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の生活を振り返り、生活時間調査、家計調査などの生活にかかわる各種調査を基に調べ学習をする。 ・仕事調べを通じて、様々な職業の特徴を知り、進路に生かす。 ・子どもの発達や、最近の子どもに関するニュースについて興味を持ち、鳥取県の子育てに関する支援を調べたり、まとめたりする。 				
教科書・教材等	教科書「生活産業基礎」(実教出版)				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1章 「生活産業基礎」 を学ぶ	・私たちの生活と「産業基礎」 ・「生活産業」のスペシャリストになるために	6	・「生活産業基礎」を学ぶ目的を理解し、自分の夢を実現させるための学習プランをたてる。
5	2章 生活に対応した 商品・サービスの 提供	・消費者ニーズの把握 ・商品・サービスの企画・開発及び販売・提供 ・関連法規	8	・私たちの生活は、産業と深くかかわっている。そのため、社会の変化はライフスタイルに大きく影響することを理解し、自らのライフスタイルを提案できるようにする。
6	3章 食生活関連分野 の産業と職業	・食生活の変化と生活産業のかかわり ・食生活関連産業の職業と資格	8	・現代の食生活の課題を考察する。 ・食品や関連産業に関する知識を習得し、課題解決に向けての技術を身につける。
7			8	
8	4章 衣生活関連分野 の産業と職業	・衣生活の変化と生活産業とのかかわり ・衣生活関連産業の職業と資格	8	・衣生活関連産業に関する知識を習得し、課題解決に向けての技術を身につける。
9			8	
10			8	
11	5章 住生活関連分野 の産業と職業	・住生活の変化と生活産業とのかかわり ・住生活関連産業の職業と資格	6	・住生活関連産業に関する知識を習得し、課題解決に向けての技術を身につける。
12			6	
1	6章 ヒューマンサービス関連分野 の産業と職業	・社会の変化とヒューマンサービス ・ヒューマンサービス関連産業の職業と資格	8	・ヒューマンサービス関連産業に関する知識を習得し、課題解決に向けての技術を身につける。
2			6	
3	7章 職業生活と自己 実現	・職業生活と生きがい ・将来の生活と学業	6	・これまでに学んだ知識や技術をもとに、職業・勤労の意義を再確認し、職業を通じて、よりよく自己を生かすことについて考察する。